

# 富国強徳

## ～「資本主導」による日本活性化投資への挑戦～

【応募区分: 高校】

チームID: SL100204 学校名: 大分県立情報科学高等学校 チーム名: 情報科学 STOCK リーグに感謝し隊  
リーダー: 佐久間 士 (3年) メンバー: 小野 魁斗 (3年)・大山 唯依 (3年)・斎藤 颯哉 (3年)  
指導教官: 衛 藤 準 (商業科教諭)



聖徳太子 (574~622)

和を以て貴しとなす



織田信長 (1534~1582)

理想や信念を見失った者は、  
戦う前から負けているといえよう。  
理想を持ち、信念に生きよ!!



上杉鷹山 (1751~1822)

成せばなる  
成さねばならぬ  
何事も



二宮尊徳 (1787~1856)

道徳のない経済は罪であり、  
経済のない道徳は陳腐である



西郷隆盛 (1828~1877)

徳に勤むる者は、これを求めずして、  
財自から生ず。



福沢諭吉 (1835~1901)

独立自尊



坂本龍馬 (1836~1867)

地球を動かしているのは、  
思想ではなく経済だ。



渋沢栄一 (1840~1931)

いやしくも世の中に立って  
完全の人たらしめるには、  
まず金に対する  
覚悟がなくしてはならぬ



高橋是清 (1854~1936)

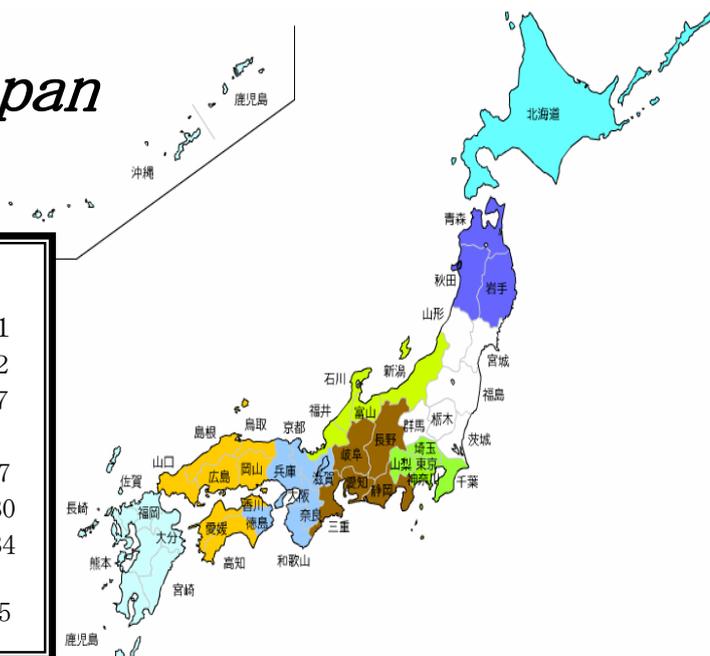
私は繰返している。  
人間出世の目標は、  
精神的であつて、  
物質的ではないと



W・パフエット (1930~)

たとえ、法的には問題がなくとも、  
普通の市民の立場から見て  
おかしいと思われる  
行動は一切とらない。

# Portfolio of Japan



● 目次 ★★★★★★★★

○冒頭:ポートフォリオ(500万円)の銘柄一覧 P 1

I テーマ設定の理由 P 2

II 銘柄のスクリーニングとポートフォリオの完成 P 7

III 個別銘柄分析と“グローバル”マップ P17

IV ポートフォリオの客観分析 P30

V ポートフォリオの分析と総括 (“富国”と“強徳”に関する総括) P34

VI ストックリーグのまとめ P35

ポートフォリオ名			Portfolio of Japan				
			～A New Departure (“日本の未来”は私たち自身の投資がつくる)～				
番号	道州	業種名	銘柄コード	銘柄名	市場名	投資金額	割合
1	北海道 特区	食品	2002	日清製粉グループ本社	東証1部	300,000	6%
		食品	1334	マルハニチロホールディングス	東証1部	250,000	5%
2	東北州	食品	2914	日本たばこ産業	東証1部	250,000	5%
		電力・ガス	9506	東北電力	東証1部	300,000	6%
3	越の国	機械	6301	小松製作所	東証1部	200,000	4%
		化学	4063	信越化学工業	東証1部	250,000	5%
4	首都圏 連合	金融・保険	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	東証1部	200,000	4%
		金融・保険	8604	野村ホールディングス	東証1部	200,000	4%
		建設	1803	清水建設	東証1部	150,000	3%
5	中部州	輸送用機器	7203	トヨタ自動車	東証1部	300,000	6%
		商業	8267	イオン	東証1部	200,000	4%
6	関西州	電気機器	6971	京セラ	東証1部	400,000	8%
		その他製品	7974	任天堂	東証1部	300,000	6%
		電気機器	6594	日本電産	東証1部	250,000	5%
7	中四国州	商業	9983	ファーストリテイリング	東証1部	300,000	6%
		サービス	9783	ベネッセホールディングス	東証1部	250,000	5%
8	九州知 事会・ 沖縄	海運	9101	日本郵船	東証1部	200,000	4%
		輸送用機器	7201	日産自動車	東証1部	150,000	3%
		電気機器	7751	キヤノン	東証1部	300,000	6%
		サービス	9603	エイチ・アイ・エス	東証1部	250,000	5%
合計投資金額						5,000,000	100%

## I テーマ設定の理由

今回の第10回日経STOCKリーグのテーマ設定にあたり最も重視した点は3点である。

第1は、過去9回の素晴らしい入賞レポートを読み返すこと。今までのレポートを踏まえて第10回記念大会にふさわしい、オリジナリティの高いレポートを書くということ。

第2は、「どうもこの国（日本）がおかしいのではないか」という率直な疑問からの発想ある。具体的キーワードは以下の図に示す。（図1-1、資料1-1【P6】国債発行残高の推移 参照）

これらを総合すると、“混迷の時代”＝日本の歴史的な時代の分岐点だという視点を得た。



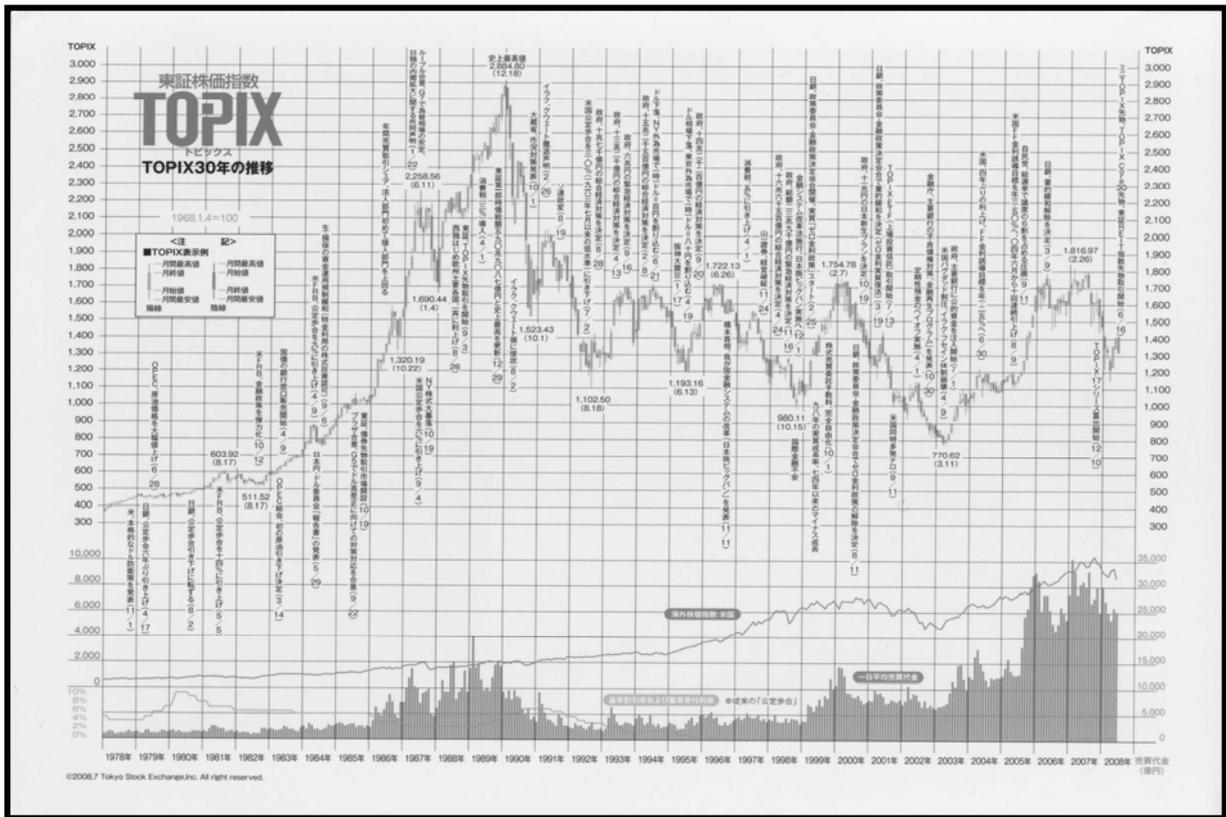
(図1-1) 今、どうもこの国がおかしい“混迷の時代”のキーワード

これでは、私たちも含め国内外の投資家から「日本の株式市場に投資するのは不安」と言われても仕方ないだろう。(図1-2) その中で、私たちはもう一度金融経済の原点に戻り、過去の日本経済史の分岐点で偉業を残した人(表紙に掲げた人達を中心)の教えを4月から7月まで分担し、表紙に掲げた人達他を中心に調べた。

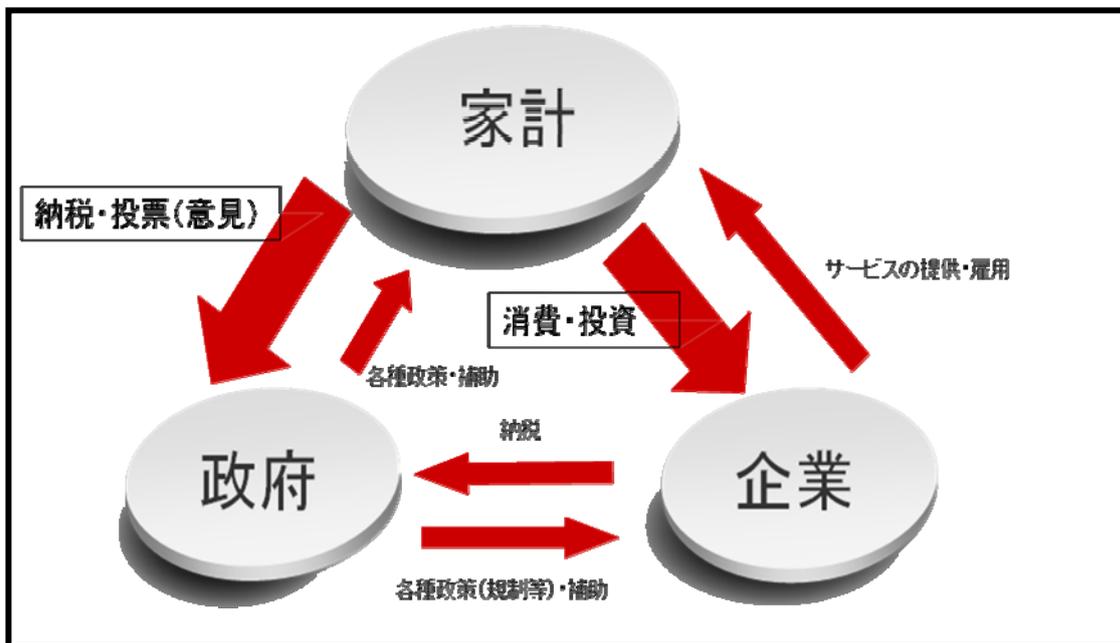
(表6-1 巻末に表として記載)

そこで見えてきたものは、お金と「信用」の一体化である。信用・信頼がない所(人)に長期的にお金(資本)は集まらない。そして、信用には徳(モラル)が不可欠だ。バブル崩壊以降、再度、日本が世界中からお金を集める(信用される)ためには徳(モラル)の強化・再生が急務であるということであり、ブレないことが重要だという視点が明確となった。

更に、今の日本を見た時、「官僚主導」から「政治主導」へというキーワードに政権交代が9月に起きたが、もう一つ大事なことは、「自分たちの意思と行動で変える！」ことができる「資本主導」で、私たちの国を豊かで元気にするのが大事なのではないか！ということもこの人物調べによって気付かされた。(図1-3)



(図1-2) 東京証券取引所 TOPIX 30年の推移 出展：東京証券取引所資料より



(図1-3) 私たちの家計(自分たちの意思と行動でこの国を変える) → 「資本主導」へ

3点目は、地方と中央の深刻な格差の進行だ。私たち4人のうち2人は県庁所在地の大分市(学校所在地ではなく)、更に地方の竹田市(旧岡藩七万石)、臼杵市(旧臼杵藩五万石)から、遠距離通学している。両市とも約140年前には県を代表する藩として栄えた城下町であるが、シャッター商店街が増え、医師・弁護士も殆どおらず、ほぼ空っぽのバスが運行し、就職先も殆どなく少子化と超高齢社会に悩まされている。

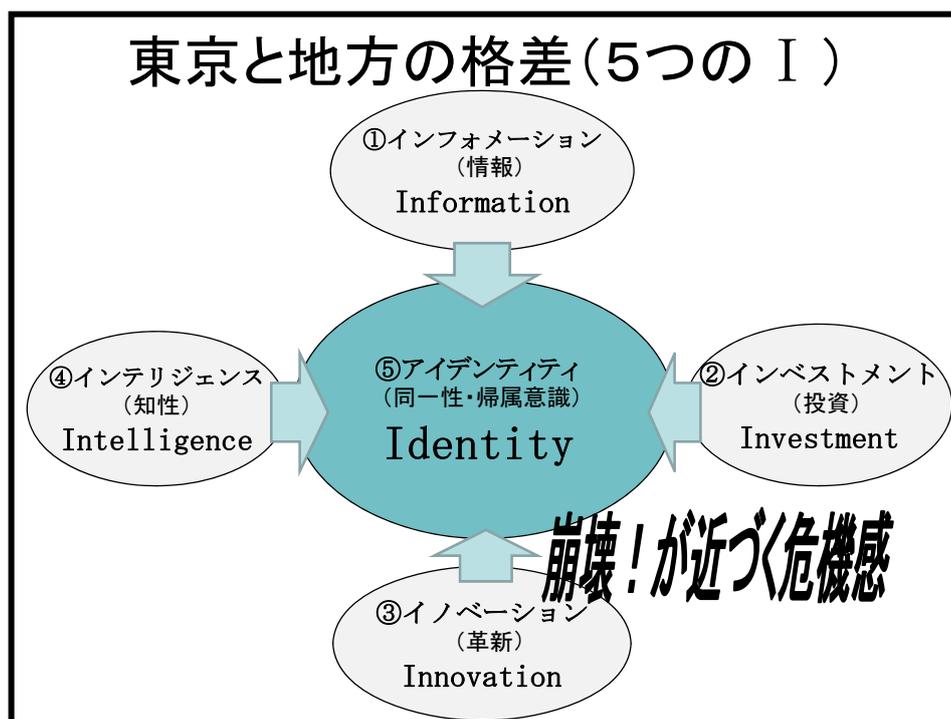
また、東京も世界的に過度な一極集中都市であり、過密によるリスクや社会問題も大変顕著だ。具体的には、大規模地震を代表とする自然災害等や防衛上の問題、“うさぎ小屋”と言われて久しい高額だが狭い居住空間、異常犯罪の増加、日常的な通勤地獄等は戦後高度経済成長から一貫して続く。

世界的に見ても過剰な中央集権（一極集中）の是正をしなければ、日本は長期的に元気になるし、日本人自身が夢や成長を信じられない、自国の市場に世界中のお金が集まってくるとは思えない。

この地方と中央の格差の弊害を、“5つのI”の進行というキーワードで考えた。

①Information（情報） ②Investment（投資） ③Innovation（革新）

④Intelligence（知性） ⑤Identity（同一性・帰属意識）の格差の進行である。中でも、最も恐ろしいと思う、⑤アイデンティティの崩壊が、私たちの地方で近づいていると強く感じた。（図1-4）

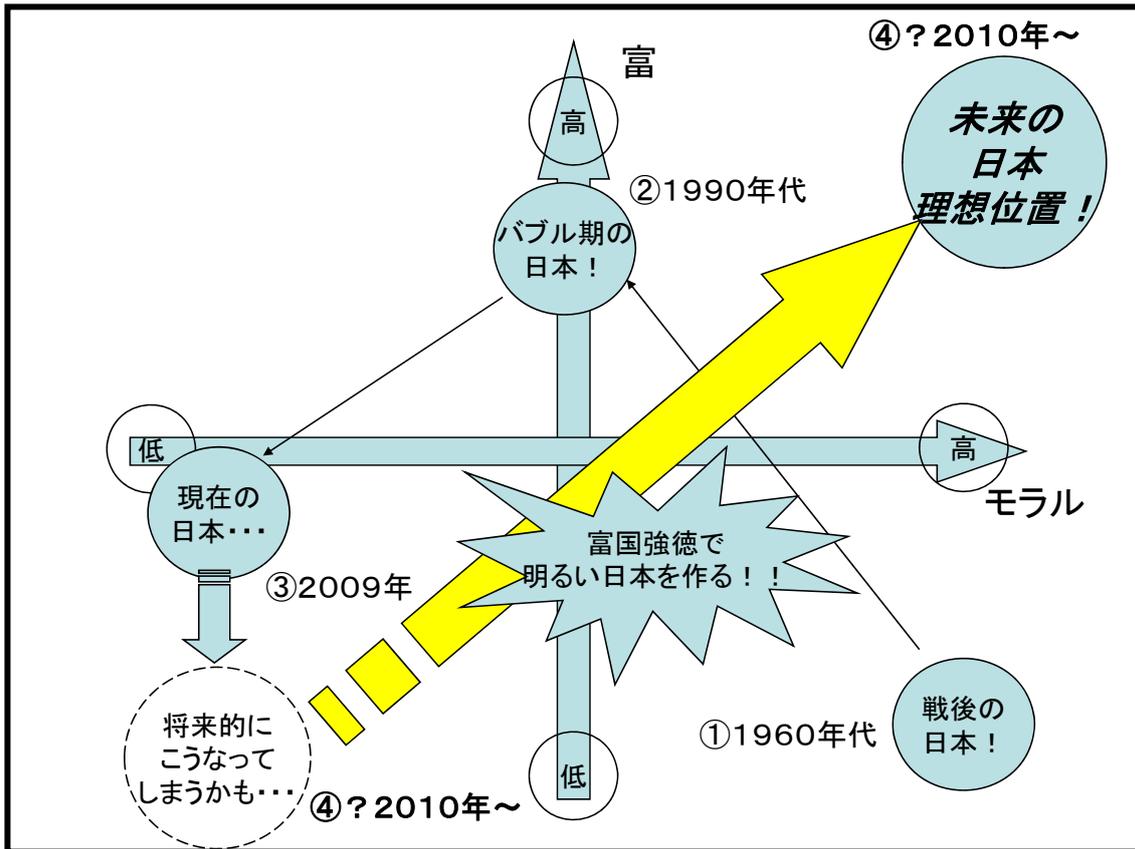


(図1-4) 東京と地方の格差(5つのI) 近づくアイデンティティの崩壊の理念

これらの進行を食い止め、日本活性化へのためには、東京一極集中社会からの脱却＝“大企業の分散（特に本社機能）”が不可欠だという結論に至った。それにより、優秀な人材や豊かな財、集中する権限や情報を、新たな形で分散を目指す事が重要だと考えた。そこで、夏休みに東証一部上場企業で、東京に本社があり、資本金が1000億円以上、従業員数が2500人以上の全企業を対象に、「東京にある本社を地方に移転する可能性がありますか」というアンケート（メール）を送った。結果は、この提案に前向きな回答をしてくれたのは2社だけだった。しかし現実には、今年8月に日産が銀座から創業の地である横浜へ本社を移転したし、07年にはトヨタが名古屋駅前に新しい名古屋オフィスを完成させ、本社機能の一部と名古屋市内と東京本社からそれぞれ国内・海外営業部門が移転したニュースは記憶に新しい。

“真理はいつも少数派。ただそれが正しければ必ず多数派となる。”という名言の下、私たちはこのテーマの可能性を信じ、投資への調査・研究をすることにした。テーマは、明治時代の「富国強兵」ならぬ「富国強徳」である。減ったとはいえ、約1400兆円の豊かな個人金融資産と世界に類を見ない高いモラル意識を持っていたはずの日本の再生と素晴らしい国づくりへの投資研究である。

(図1-5, 図1-6)



(図 1-5) “富国強徳” = 戦後日本からバブル期、そして今の日本の座標と目指すべき方向性

+



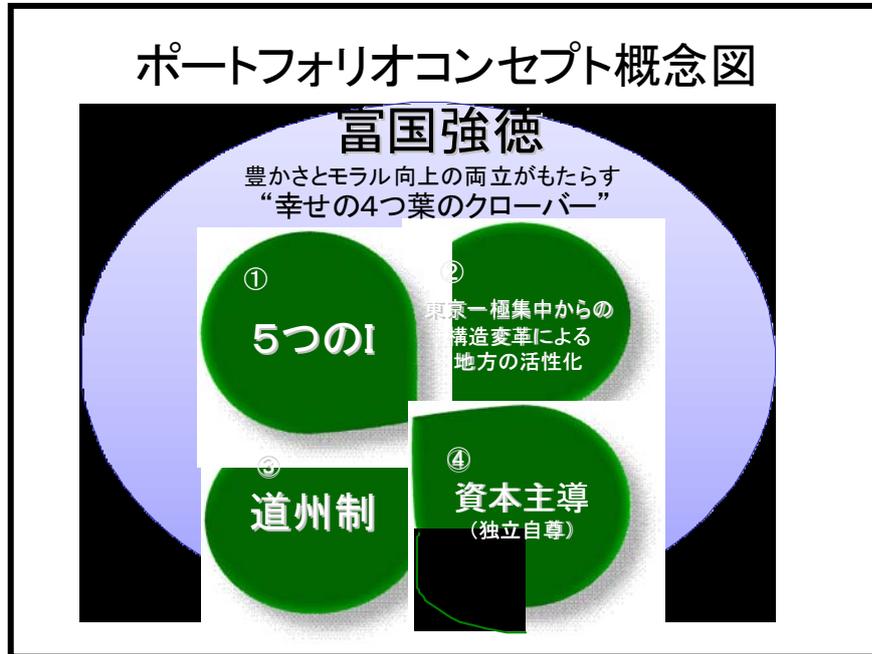
(図 1-6) “独立自尊” の精神に基づく理想の日本の国 (政府) づくり



## II 銘柄のスクリーニングとポートフォリオの完成

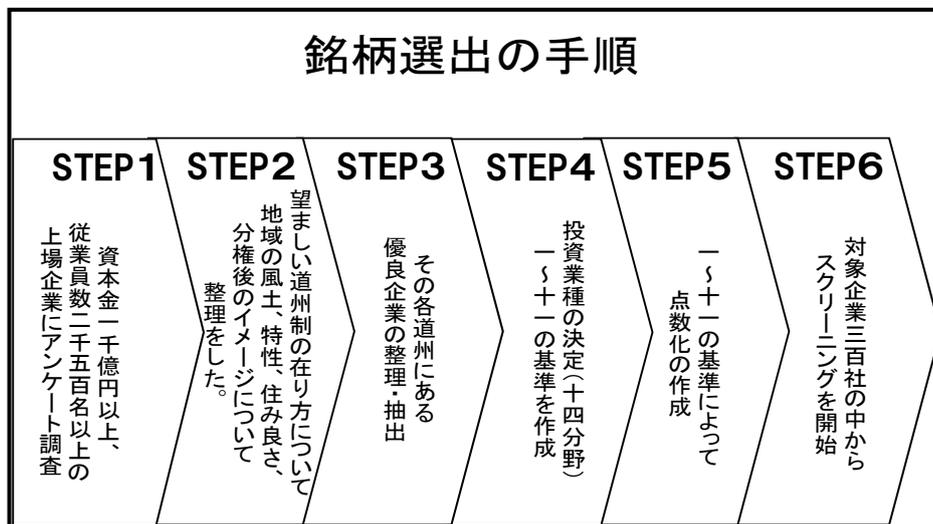
### 1. ポートフォリオのコンセプト

今回のポートフォリオコンセプトとなるのは、「富国強徳」（豊かさとモラル向上の両立）をベースとした、①5つのI、②東京一極集中からの構造変革による地方の活性化、③道州制、④資本主導（独立自尊の精神）の融合点である。（図2-1）



（図2-1）ポートフォリオコンセプト概念図

### 2. スクリーニングの流れ（図2-2）



（図2-2）銘柄選出の手順

**STEP 1** まず、アンケート調査（7月～ 抽出条件：東証1部上場企業、資本金1000億円以上、従業員数2500名以上）をメールで行った。

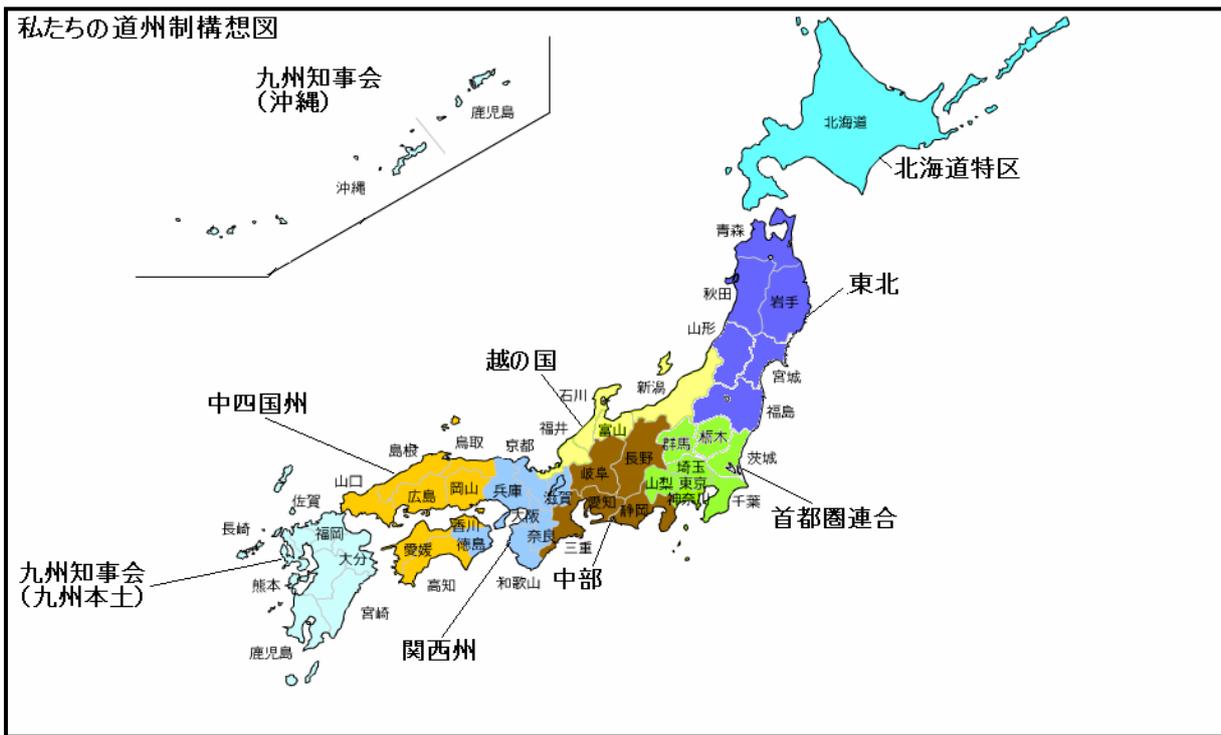
**STEP 2** 望ましい道州制の在り方の検討（9月）

（現在進んでいる道州制の区割 毎日新聞2004.10.13をベースに一部独自作成）

- それぞれの地域の歴史や風土、特性の調査
- 各地域の各都市ごとの住み良さランキングの整理と抽出
- 各道州・各都市のイメージ整理（各道州のどの都市を軸と考えるか、長期的な幸せ地域像作り）

(表 2-1) 各道州の未来イメージと投資分野(産業)

番号	道州ブロック	各道州への未来イメージ(投資イメージ)	投資分野産業
1	北海道の道州制特区構想	今後世界的に食の領域は極めて重要な産業となる。豊かな自然と第一次産業の活性化の旗手として地域をイメージした。	水産農林業 食品 商業
2	東北州	果樹栽培や農林業を始めとした地理的な優位性を最大限に生かし、第一次産業だけではなく地域の特性による各種の自然エネルギーを最大限に生かした地域活性化をイメージした。	水産農林業 食品 電力・ガス
3	越の国構想	上杉家の時代からオリジナリティを大事にした地域風土や伝統は現代の企業でも着実に息づいている地域である。世界的に通用するモラルの高さも兼ね備えた、小さいが独立自尊の精神で栄えることが出来る地域だとイメージした。	化学 電気機器 機械 輸送用機器
4	首都圏連合	地方に出来る限り本社を移したいが、国の金融の中心地としてまた、世界の金融業界を引っ張っていく存在感のある国際都市として、また、アジアで急成長を続けている建設ラッシュに対応できるゼネコンにも大きく期待するイメージを優先した。	金融・保険 建設業
5	中部州	今回のテーマである「本社の地方移転」の1つのモデルケースであり、大きな手本となっているトヨタ自動車を中心とした、モノづくりとそれを中心として町づくりで豊かな日本の中心的存在としてイメージした。	電気機器 化学 輸送用機器 機械 商業
6	関西州	京都や大阪は江戸時代までは日本の中心であり、かつ、現在もこの地域に本社を持ち続け世界的に活躍している企業も多い。地元経済に大きく貢献し続けかつ経営モラルも非常に高い地域だとイメージした。	化学 電気機器 輸送用機器 機械 その他製品 サービス
7	中四国州	一部上場企業の少ない中国・四国だが、江戸後期から明治にかけて山口や高知など日本のイノベーションを担った人材輩出の地域でもある。(長州・土佐など)製紙業や教育産業の特性のある各業界を代表するような素晴らしい企業が中核として再び活躍してくれることをイメージした。	商業 パルプ・紙 サービス 電力・ガス 金融・保険 海運業
8	九州知事会道州制研究	伸びゆくアジアに最も地理的に近い利点を最大限に生かし、輸送用機器やIT・電気機器等のモノづくりの先端地域として21世紀に発展しくイメージとした。沖縄は特に、基地問題、有効求人倍率の低さ等様々な問題を抱えるが、全く違う発想でアジアの中心として飛躍させられるようなイメージを大切にした。	金融・保険 機械 輸送用機器 電気機器 サービス



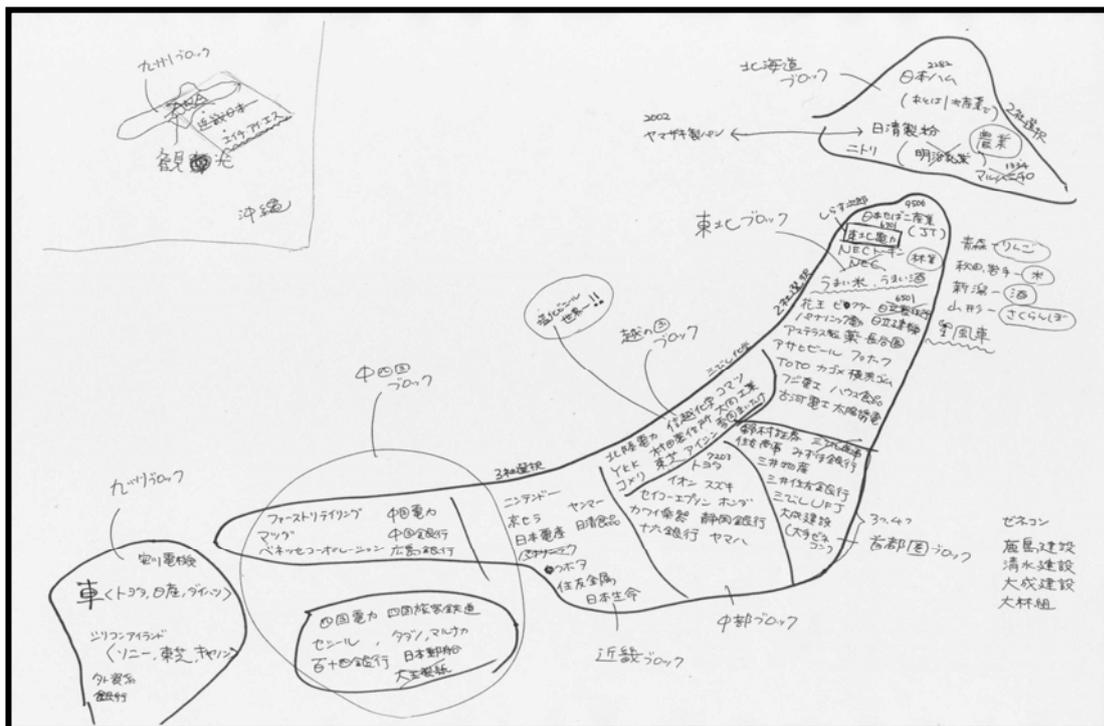
(図2-3) 私たちが今回設定した8道州制の区分 (現在進んでいる道州制の区割 毎日新聞2004.10.13をベース)

**STEP 3** 各道州にある優良企業の整理・抽出

各道州にある企業をSTEP 2の投資区分に従い、約300社を選出。以下のことを考え整理した。

- 現在、その道州に本社の所在地がある。
- 今後の東京からの本社移転等の可能性も考慮。
- その企業がどのようなモラルを展開しているのか。
- 財務状態や経営成績はどうか、良好であるか。

(資料2-1) 各道州にある優良企業の整理・抽出作業中の私たちの手書きチャートより



**STEP 4** 投資業種（12分野）の決定

「富国強徳のための5本柱」を作成し、富国強徳のために必要な業種を整理して抽出した。

① 第1の柱・・・衣食住を大切にす！

住みよい町は衣食住から！特に食は日本の衰退、他国への食料依存度の高さが著しい。  
いつか必ず訪れるであろう世界的食糧不足に対応出来るよう、基本の衣食住を投資で応援した。

② 第2の柱・・・日本の切り札、日本の強みを支援！

他国では真似が出来ない日本ならではの高い技術を持った産業（電気機器、機械、化学）分野の育成を強力に応援する！

③ 第3の柱・・・エコ・環境への取り組みの強化をする！

太陽光・風力発電などの新エネルギーの推進や、植樹活動、環境啓発などを積極的に行っている企業を応援する！

④ 第4の柱・・・学力レベルの向上、若者たちへの投資を大切にす！

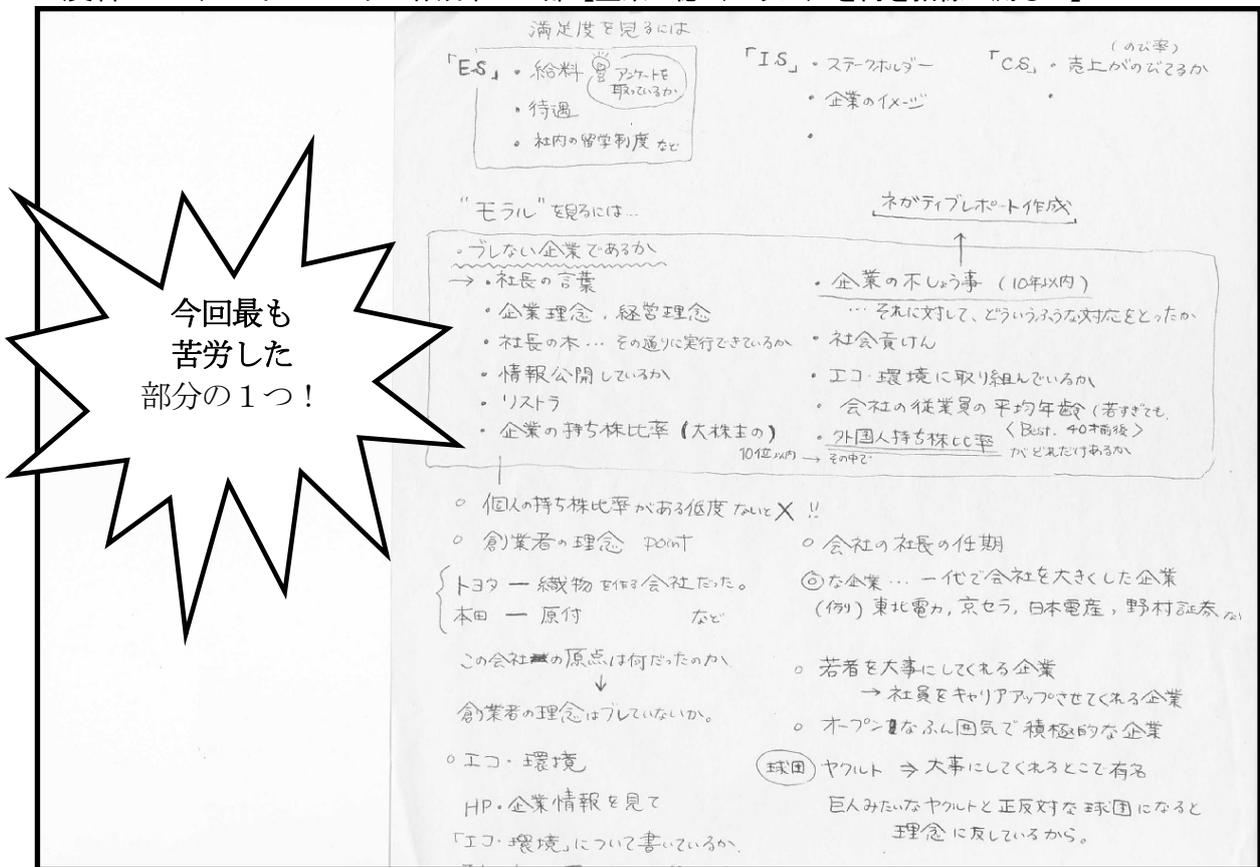
他国に比べて単一民族の性が高い民族的・歴史的の特長、他国への優位性を最大限有効活用する

⑤ 第5の柱・・・東京の金融強化

大企業の本社・工場を地方へ移動を考察する本レポートでは、東京には首都にあるべき業種（金融・証券先物取引・建設・物産等）で、これから世界をリードする都市になってもらいたい。その中心として金融機関の強化を挙げる。世界の直接・間接金融業界をリードする、

「世界で最もお金が集まる東京」を目指すため、これを強力に応援する！ （資料2-2）

（資料2-2）マインドマップ作成中の一部【企業の徳（モラル）を何を指標に測るか】



### 3. スクリーニングの基準と点数化 STEP 5

#### (1) 「財務」の点数化基準

#### ①安全性・・・株主資本比率（自己資本比率）、流動比率、当座比率

##### ア) 株主資本比率（自己資本比率）

5点	60%より上
4点	50%～60%
3点	30%～50%
2点	20%～30%
1点	20%以下

##### イ) 流動比率

5点	220%以上
4点	200%
3点	160%
2点	140%
1点	120%以下

##### ウ) 当座比率

5点	120%以上
4点	100%
3点	80%
2点	70%
1点	60%以下

#### ②効率性・・・総資産回転率、ROE

##### ア) 総資産回転率

5点	1.5回より上
4点	1.0回～1.5回
3点	0.7回～1.0回
2点	0.6回～0.7回
1点	それ以下

##### イ) ROE

5点	15%以上
4点	10%以上
3点	5%以上
2点	3%以上
1点	3%未満

#### ③成長性・・・売上高利益率、営業利益率、自己資本伸び率

##### ア) 売上高利益率

5点	10%以上
4点	6%～10%
3点	4%～6%
2点	2～4%
1点	2%未満

イ) 営業利益率

- |    |        |
|----|--------|
| 5点 | 10%以上  |
| 4点 | 6%~10% |
| 3点 | 4%~6%  |
| 2点 | 2~4%   |
| 1点 | 2%未満   |

ウ) 自己資本伸び率

- |    |        |
|----|--------|
| 5点 | 5%以上   |
| 4点 | 3%~5%  |
| 3点 | 1%~3%  |
| 2点 | 0.1~1% |
| 1点 | それ未満   |

④業績・・・当期純利益、売上高

ア) 当期純利益

- |    |                              |
|----|------------------------------|
| 5点 | 3年間で増収増益                     |
| 4点 | 過去2年間は増収増益だが昨年度は減益、今年の上半期は増益 |
| 3点 | 過去3年間増収減益または減収増益             |
| 2点 | 直近3年間でともに減益                  |
| 1点 | 直近2年間でともに減収減益                |

イ) 売上高

- |    |                              |
|----|------------------------------|
| 5点 | 3年間で増収増益                     |
| 4点 | 過去2年間は増収増益だが昨年度は減益、今年の上半期は増益 |
| 3点 | 過去3年間増収減益または減収増益             |
| 2点 | 直近3年間でともに減益                  |
| 1点 | 直近2年間でともに減収減益                |

⑤割安感・・・PER、PBR、営業利益伸び率

ア) PER

- |    |                   |
|----|-------------------|
| 5点 | 業種別平均PERの-51%以上   |
| 4点 | 業種別平均PERの-31%~50% |
| 3点 | 業種別平均PERの±20%     |
| 2点 | 業種別平均PERの+31%~50% |
| 1点 | 業種別平均PERの+50%     |

イ) PBR

- |    |                     |
|----|---------------------|
| 5点 | 業種別平均PBRの-21%~50%以上 |
| 4点 | 業種別平均PBRの-11%~20%   |
| 3点 | 業種別平均PBRの±10%       |
| 2点 | 業種別平均PBRの+11%~20%   |
| 1点 | 業種別平均PBRの+21%~50%以上 |

ウ) 営業利益伸び率 (昨年度と今年上半期を比較)

5点	10%以上
4点	5%~10%
3点	-5%~5%
2点	-15%~-5%
1点	-15%より下 (-30%以下は0点とする)

⑥配当性向・・・経常利益率、配当性向

ア) 配当性向

5点	20%以上
4点	16%以上
3点	12%以上
2点	6%以上
1点	2%まで

イ) 経常利益率

5点	10%以上
4点	7%~10%
3点	5%~7%
2点	2%~5%
1点	2%以下

⑦技術力・・・設備投資率 (当期純利益に対する)

ア) 設備投資率 (当期純利益率)

5点	15%以上
4点	10%~15%
3点	5%~10%
2点	2%~5%
1点	2%未満

⑧研究開発・・・研究開発比率 (当期純利益に対する)

ア) 研究開発比率

5点	15%以上
4点	10%~15%
3点	5%~10%
2点	2%~5%
1点	2%未満

## (2)「徳（モラル）」の特別点数の点数化基準

⑨～⑪は私たちのコンセプトを重視した「モラル」の特別点数ゾーンとした。

点数は私たちの目から見て以下の項目を客観的に分析し、その程度によって0～5点でつけた。

### ⑨経営理念等・・・経営理念、誠実さ、有言実行、業界での位置、グローバル化、エコ・環境

ア) 経営理念が明確であるか、分かりやすいか

イ) 何に対しても誠実であるかどうか

ウ) 有言実行であるか

エ) その企業の業界での立ち位置は

その企業はその業界でどの程度のシェアを持っているか(国内・海外にて)

オ) グローバル化は積極的に推進しているか

海外に支社をどの程度置いているか、BRICs等に注目して支社を置いているかどうか

カ) エコ・環境についての対応・動きはどうか

エコ・環境保全活動にしっかりと協力しているかどうか

### ⑩リストラ・NI・・・リストラ、不祥事対応、ネガティブインフォメーションを載せているか

ア) リストラをなるべくしていないか

イ) 不祥事への対応がしっかりと出来ているか

ウ) NI（ネガティブインフォメーション）を掲載し、きちんとした謝罪、打開策があるか

### ⑪株式占有・経営者・・・任期、年齢、個人株主、大株主、外国人株主

ア) 任期は適度か、創道家系のみで経営していないかどうか

社長が毎年のように変わっている会社からは長期の経営ビジョンは見えてこない。  
また、「次の社長がどうにかしてくれる、私は問題を起こさないように任期を終えよう。」という考え方が浮かんでくるかもしれない。

また、創業の家系だけで社長を交代しているようでは、本当に仕事の出来る誠実な社員が、評価してもらえていないのではないか。

イ) 従業員の平均年齢は高すぎないか、低すぎないか。

平均年齢が高すぎる会社は新たな若い雇用をあまり生んでいない。そして、現代の新しい考え方も生まれにくいだらうと思う。だが逆に平均年齢が低すぎるとあまり長期間勤めている人がいない、そしてベテラン社員がいない、ということになる。

よって高すぎず、低すぎず、40歳前後を最高の状態として点数化した。

ウ) 個人株主の状況はどうか？広く売り買いが可能であるか

特定の個人・団体が占有しすぎているかどうか。

エ) 大株主がその会社の社長であったりしないか

自分の会社の株を大量に保有するなどして会社を自分のものとせず、たくさんの人たちの売買ができるようにしているか。

オ) 外国人株主はどの程度存在するか、過剰・過小でないか

外国人が購入しているということは外国からの期待が注がれているということだが、これが過剰であると本来買うべき日本人が買えず、私たちの手での富国強徳が実行できない。よって、これも多すぎず少なすぎずの状態を最高として考えた。

**STEP 6** 対象企業約300社の中からスクリーニング開始

以上の項目を240点満点で点数化し、約300社の中から、道州へのバランスと配分、合計点数の高さ等を考慮して道州ごとに2～3社を抽出した。

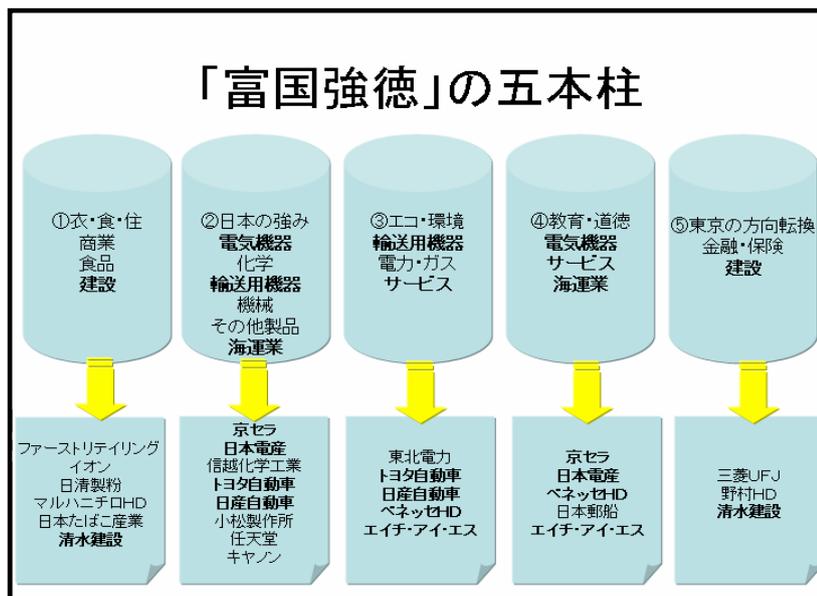
この結果、私たちの「富と徳を生み出すポートフォリオ」に沿う、素晴らしい20社は以下の通りになった。

(表2-2) 抽出結果20社 (得点合計の高い順)

※合計点は整数で表示

順位	銘柄コード	銘柄名	市場	業種	1 安全性	2 効率性	3 成長性	4 業績	5 割安感	6 配当性向	7 技術力	8 研究開発	9 モラルと 裏付け	10 リストラと 不祥事	11 株式占 有・経営者	合計
1	4063	信越化学工業	東1	化学	15	6	12	10	6	9	8	2	57	22	24	184
2	6971	京セラ	東1	電気機器	15	3	4	10	4.7	8	8	10	55.5	27	26	183
3	7974	任天堂	東1	その他製品	15	9	11	12	6	10	4	4	49.5	25	20	179
4	9983	ファーストリテイリング	東1	商業	11	15	12	9	6	9	4	2	51	22	19	173
5	6594	日本電産	東1	電気機器	5	7.5	9	9	6	8	4	4	55.5	26	26	170
6	6301	小松製作所	東1	機械	6	7.5	8	12	6	7	6	6	52.5	23	22	167
7	8306	三菱UFJFG	東1	金融・保険	7	4.5	9	8	6.7	6	6	4	52.5	25	24	167
8	2002	野村HD	東1	金融・保険	9	6	7	8	3.3	6	6	6	58.5	24	23	167
9	7203	トヨタ自動車	東1	輸送用機器	15	6	3	9	4	3	10	10	54	16	23	165
10	2002	日清製粉	東1	食品	15	10.5	8	14	8	8	4	2	45	14	21	163
11	7751	キヤノン	東1	電気機器	14	7.5	4	12	3.3	6	6	6	52.5	16	20	159
12	9506	東北電力	東1	電力・ガス	8	3	12	8	7.3	6	8	2	48	14	25	152
13	1803	清水建設	東1	建設	3	6	7	11	4.7	6	6	6	46.5	21	24	151
14	9783	ベネッセHD	東1	サービス	8	12	10	13	4.47	10	2	2	46.5	11	20	151
15	7201	日産自動車	東1	輸送用機器	4	4.5	5	7	4	2	10	10	52.5	17	24	149
16	9101	日本郵船	東1	海運	4	6	3	10	4.7	5	6	2	58.5	20	18	145
17	9603	エイチ・アイ・エス	東1	サービス	7	12	3	9	4.7	7	4	2	45	21	19	143
18	2914	日本たばこ産業	東1	食品	5	10.5	10	14	5.3	8	8	4	45	11	16	142
19	1334	マルハニチロHD	東1	食品	3	12	7	13	6	3	6	2	48	10	20	140
20	2002	イオン	東1	商業	4	7.5	3	10	4.7	3	10	2	48	15	22	138

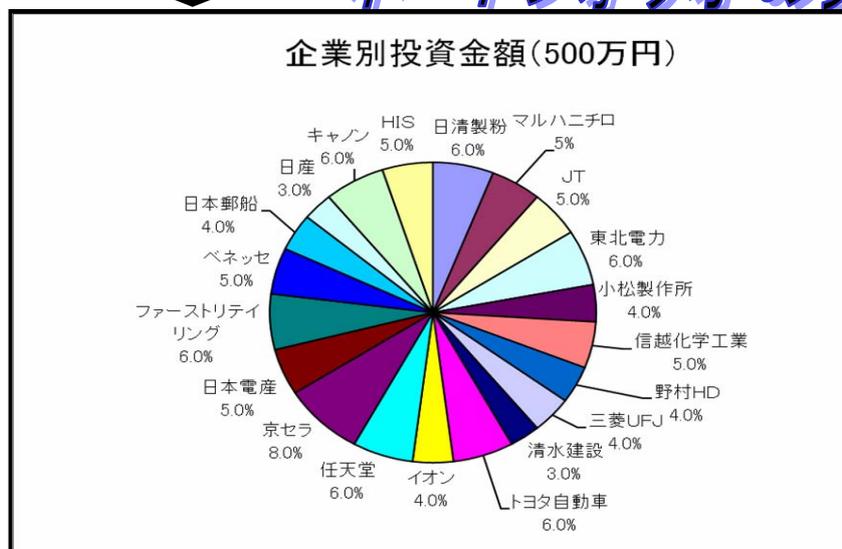
4. 投資分野別分類（複数該当は太文字で示してある）  
 更にコンセプトに従い、富国強徳のための五本柱に区分すると以下の通りになる。



(図2-4) 富国強徳の五本柱  
 (表2-3) 投資期待度による投資金額の区分

投資期待度	投資金額	総合評価・業種内調整
① AAA	400,000 円	モラル最高評価、財務平均以上の企業1社 (ここには、京セラが1社のみ該当した。)
② AA+	300,000 円	各道州の最優良企業 (東京、越の国の一番は業種内・地域調整によりAA-に該当させている。)
③ AA-	250,000 円	各道州2番目となった企業 (東京2番手は地域調整によりここに該当させない)
④ A+	200,000 円	各道州2番のAA-の残りの3社。 (東京の1・2番と中部の2番はここに該当する)
⑤ A-	150,000 円	それ以外の企業 (地方2・3番、東京3番が該当)

↓ **ポートフォリオの完成!**



(図2-5) 企業別投資金額の内訳 (ポートフォリオ完成図)

### Ⅲ 個別銘柄分析と“グローバル”マップ

例) 【道州区分】 企業名 [銘柄コード 市場名 業種] ○モラル: AAA~A

※「モラル」の項目の評価は、「テーマ」の点数が100点以上ならばAAA  
90点以上ならばAA、それ以下ならばAとして三段階で評価した。

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
×1.0	×1.5	×1.0	×1.0	×2/3	×1.0
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
×1.0	×1.0	×1.0	×1.0	×1.0	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
ここには各メンバーの調査企業寸評を記載。				財務	120点満点
				テーマ	120点満点
				<b>240</b> 点満点	

これら11項目は、

- ①「安全性」～⑧「研究開発」までの点数の合計を「財務」ゾーン
- ⑨「モラルと裏付け」～⑪「株式占有・経営者」までの点数の合計を「テーマ」ゾーンとして、それぞれ集計して合計した。

更に私たちのコンセプトを明確にするために、「財務」と「テーマ」の点数の比重を1:1に調整し、どちらの項目も重視するために点数調整を行った。

(効率性の点数最大5点に一律1.5倍、割安感の点数最大5点に一律2/3倍)

#### ●個別銘柄分析 (抽出全20社)

1. 【①北海道】 日清製粉グループ本社 [2002 東証1部 食品] ○モラル A

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
15	10.5	8	14	8	8
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
4	2	45	14	21	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
お客様のお問い合わせに迅速に対応し食品表示を見やすくし、図にて丁寧に変更点を説明するなど消費者に対する姿勢・対応が非常に良い。また全国で各種の料理大会、料理教室を開催している。CSRについても有力なCSR投資指標である「FTSE4GoodIndex」に2年連続で選定されるなど消費者・株主の両面から信頼の置ける日本の食を支える企業である。				財務	83.4点
				テーマ	80.0点
				<b>163.4</b> 点	

2. 【①北海道】 マルハニチロホールディングス [1334 東証1部 食品] ○モラル A

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
3	12	7	13	6	3
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
6	2	48	10	20	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
北海道といえば水産を中心とする第一次産業の中心地域であるが、海外にも95の傘下企業を置き、「世界においしい幸せを」をスローガンに日本の衰退しつつある水産・食品・畜産に大きく貢献している。公正取引委員会からある件で勧告を受けた際も、その日のうちにHPに謝罪文と詳細な内容・改善策を提示している点にも非常に好感が持てた。				財務	62.4点
				テーマ	78.0点
				140.4点	

3. 【②東北】 日本たばこ産業 [2914 東証1部 食品] ○モラル A

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
5	10.5	10	14	5.3	8
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
8	4	45	11	16	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
CM等で幅広くマナー啓発活動を行っている。日本企業では数少ない「企業もその町の市民としての行動をせねばならない」という「シチズンシップ」を経営方針に取り入れているところは斬新である。ボランティアの開催数も全国随一で主催企業としてゴミ拾い等清掃活動を積極的に行なっている日本の第一次産業の中核としてグローバルに活躍する企業である。				財務	70.5点
				テーマ	72.0点
				142.5点	

4. 【②東北】 東北電力 [9506 東証1部 電力・ガス] ○モラル A

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
8	3	12	8	7.3	6
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
8	2	48	14	25	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
全国の4割強の風力発電の導入量を誇っている。また、平成12年から開始されている「東北グリーン電力基金」の事務業務を代行。自らも寄付金を毎年拠出し、東北地域からの寄付金をあわせ、太陽光・風力発電の積極的な支援を進めているのは大変好印象である。また、HPの問い合わせ窓口が分かりやすく、メールでの資料請求も迅速に対応してくれた。				財務	65.1点
				テーマ	87.5点
				152.2点	

5. 【③越の国】小松製作所 [6301 東証1部 機械] ○モラル AA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
6	7. 5	8	12	6	7
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
6	6	52. 5	23	22	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
私たちのテーマ「8道州制」に基づき、発足が石川県で現在は東京に本社があるコマツに故郷の越の国に本社を移して欲しいという願いを込めて購入した。建設機械の日本でのシェア1位。グローバル化にいち早く着眼し、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジアなどにも多数のグループ企業を展開し、耕作機を販売している企業である。				財務	70.2点
				テーマ	97.5点
				<b>167.7</b> 点	

6. 【③越の国】信越化学工業 [4063 東証1部 化学] ○モラル AAA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
15	6	12	10	6	9
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
8	2	57	22	24	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
コマツと同じく越の国の活性化にさらに寄与してほしく思い、元々長野県発祥で本社が東京にある信越化学を購入した。半導体ウエハ、シリコン樹脂などを主力商品とし、特に塩化ビニル樹脂、半導体ウエハは世界シェア首位。金川社長のリーダーシップで13期連続の増益を達成。また今回私たちのスクリーニングで最も高い点数をはじき出した銘柄である。				財務	81.6点
				テーマ	103.0点
				<b>184.6</b> 点	

7. 【④首都圏】三菱UFJフィナンシャル・グループ [8306 東証1部 金融・保険] ○モラル AAA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
7	4. 5	9	8	6. 7	6
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
6	4	52. 5	25	24	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
私たちの今回の首都圏のイメージ像は金融の中心地域として考えることだ。その中でも日本最大の金融グループで、日本のみならず世界の間接金融業界を引っ張っていく中心的存在である、三菱UFJに今後の期待を込めて投資をした。また、HPの文章はすべて音声で読み上げることが可能で本当に全ての人に向けての広い情報開示に努めている。				財務	65.4点
				テーマ	102.0点
				<b>167.4</b> 点	

8. 【④首都圏】野村ホールディングス [8604 東証1部 金融・保険]

○モラル AAA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
9	6	7	8	3.3	6
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
6	6	58.5	24	23	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
日本最大の証券持株会社。08年には大幅の赤字を顧みず経営破綻したリーマンブラザーズの北米と韓国を除く全地域を買収するなど、この不況下他では見られない経営に深く感心した。また、今大会の主催等、日本で不足している中高生の金融教育を多額の費用を出して積極的に行っている。投資が不足している日本でこの企業の存在はとても重要であると思う。				財務	61.5点
				テーマ	106.0点
				<b>167.5点</b>	

9. 【④首都圏】清水建設 [1803 東証1部 建設]

○モラル AA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
3	6	7	11	4.7	6
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
6	6	46.5	21	24	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
首都東京の柱、大手ゼネコン。今中国等を中心に富裕層が増加しており、世界中に高級建築が増えていくことが予想される。そこで「こどもたちに誇れるしごとを。」というメッセージを元に多様な建築物に挑戦し続けている。現在急成長をしているあちこちの国々に支社があり、これらを足がかりに世界規模の建設ラッシュと国内の街作りへの活躍を期待したい。				財務	59.6点
				テーマ	91.5点
				<b>151.1点</b>	

10. 【⑤中部】トヨタ自動車 [7203 東証1部 輸送用機器]

○モラル AA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
15	6	3	9	4	3
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
10	10	54	16	23	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
自動車生産・販売で世界首位。経営の核に「豊田綱領」があり、創業者豊田佐吉の純日本人的な考え方による経営を貫いている。また世界最大企業になってからも本社を愛知県豊田市に置き、地方の活性化というテーマでポートフォリオを組む私たちには大きな希望になった。これからも地方の発展に更なる寄与をしようと思購入した。				財務	72.0点
				テーマ	93.0点
				<b>165.0点</b>	

## 1 1. 【⑤中部】イオン [8 2 6 7 東証1部 商業]

○モラル A

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
4	7. 5	3	1 0	4. 7	3
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
1 0	2	4 8	1 5	2 2	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
イオンはラテン語で「永遠」という意味でお客様への貢献を永遠の使命とするという分かりやすく深い経営理念に強く惹かれた。また、「イオンチアーズクラブ」を主催し、こどもたちに植樹活動を通じて環境に興味を持たせる活動を行っている。創業当時の江戸時代は三重県四日市に企業を構えていた。ぜひこの中部に戻ってきて欲しいという意味も込めて購入した。				財務	53.0 点
				テーマ	85.0 点
				138.0 点	

## 1 2. 【⑥関西州】京セラ [6 9 7 1 東証1部 電気機器]

○モラル AAA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
1 5	3	4	1 0	4. 7	8
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
8	1 0	5 5. 5	2 7	2 6	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
創業者の稲森和夫会長率いるセラミック・半導体製造など電子部品の製造を行う企業。現在ではa uがよく知られている。地元京都で科学文明の発展、人類深化に貢献をした人を表彰する「京都賞」を自ら主催し、地域貢献、地域発展に大きく寄与している。また、稲森さんがおっしゃった“「徳」による国家の舵取りを”という言葉は私たちの心に一番強く響いた。本社も京都にあり、本ポートフォリオの本命銘柄で強く応援したい企業である。				財務	75.2 点
				テーマ	108.5 点
				183.7 点	

## 1 3. 【⑥関西州】任天堂 [7 9 7 4 東証1部 その他製品]

○モラル AA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
1 5	9	1 1	1 2	6	1 0
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
4	4	4 9. 5	2 5	2 0	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
創業当時から京都府に本社を置く、家庭用ゲーム機業界では世界最大級の企業。世界的にも珍しい無借金経営は数字以外での安全性の高さを示している。京都の産業を京セラ・日本電産・その他企業と共にこれからも支えていてもらいたい。そしてゲームという産業はこれから中国等での富裕層の増加で需要が増加していくという思いと期待を込めて購入した。				財務	85.2 点
				テーマ	94.5 点
				179.7 点	

14. 【⑥関西州】 日本電産 [6594 東証1部 電気機器] ○モラル AAA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
5	7. 5	9	9	6	8
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
4	4	55. 5	26	26	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
小型モータにおいて世界大手。永守社長の“雇用は最大の社会貢献である”という言葉の通りリストラを行わない。今年1月この不況下でも人員を減らさないために役員報酬を50%カットを行うなどその姿勢は本気であると思う。またM&Aを積極的に行い、買収した会社を1年で最高益にするなどその強いカリスマ性は今後の京都を担うものであると思う。				財務	63.0点
				テーマ	107.5点
				<b>170.5点</b>	

15. 【⑦中四国】 ファーストリテイリング [9983 東証1部 商業]

○モラル AA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
11	15	12	9	6	9
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
4	2	51	22	19	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
傘下のユニクロが有名。現在日本のアパレル業界の中で売上高、営業利益ともに首位。01年から海外進出をし、今では海外の店舗だけで112もある。また柳井社長の強力なリーダーシップの元、山口県発祥のこの企業に中国地方活性化の大黒柱として活躍してもらいたい。さらに障害者雇用率も8.06%とトップクラスの水準で全ての人を考えた優良企業である。				財務	81.6点
				テーマ	92.0点
				<b>173.6点</b>	

16. 【⑦中四国】 ベネッセホールディングス [9783 東証1部 サービス]

○モラル A

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
8	12	10	13	4.7	10
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
2	2	46.5	11	20	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
「進研ゼミ」などの通信教育で最大手。大企業化してからも本社を岡山県岡山市から動かさず地方経済を支えている点で大変好印象を受けた。また、ボランティア、小論文コンクール、環境自由研究コンクール等を行い次世代の子供たちの思想教育、情操教育を行い、CSRもしっかり果たしている。これからも岡山市にあり続け、中国地方を活性化してもらいたい。				財務	74.0点
				テーマ	77.5点
				<b>151.5点</b>	

17. 【⑦中四国】日本郵船 [9101 東証1部 海運] ○モラル AA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
4	6	3	10	4.7	5
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
6	2	58.5	20	18	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
<p>古くは三菱財閥の源流企業であり、日本のフラッグ・キャリアである。この企業の歴史上での人物「坂本龍馬」「岩崎弥太郎」がともに高知県出身であることに関連してこの地方に本社を置いてもらいたいという願いを込めて購入した。私たちが夏に実施したアンケートの返答が最も早く内容の濃い前向きな回答をしてもらえ、私たちのテーマに勇気を与えてくれた。</p>				財務	48.8点
				テーマ	96.5点
				<b>145.3点</b>	

18. 【⑧九州・沖縄】日産自動車 [7201 東証1部 輸送用機器] ○モラル AA

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
4	4.5	5	7	4	2
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
10	10	52.5	17	24	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
<p>世界自動車トップ10に入る日本の誇れる自動車企業の一つ。日産生産方式 (NPW) という顧客の注文に基づく詳細な生産指示書により生産する方法で、受注から納車までが3日という迅速な生産を実現した。また、その立役者である CEO のカルロス・ゴーンの経営方針も白黒はっきりした「企業の未来が見える」もので、投資者から見ても買いやすいと判断した。</p>				財務	55.8点
				テーマ	93.5点
				<b>149.3点</b>	

19. 【⑧九州・沖縄】キヤノン [7751 東証1部 電気機器] ○モラル A

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
14	7.5	4	12	3.3	6
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
6	6	52.5	16	20	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
<p>私たちの地元大分に設備、規模ともにキヤノン最大の工場を置いている、大分が誇る世界企業である。事務機やデジカメで高いシェアを獲得し業績も好調である。また、特許件数が13年連続で世界第3位以内という常に便利で消費者に喜んでもらえる商品の開発に挑んでいる姿勢に感銘を受けた。これからも私たちの大分の経済を創り、支えていてもらいたい。</p>				財務	70.5点
				テーマ	88.5点
				<b>159.1点</b>	

20. エイチ・アイ・エス [9603 東証1部 サービス] 【⑧九州・沖縄】○モラル A

1. 安全性	2. 効率性	3. 成長性	4. 業績	5. 割安感	6. 配当性向
7	12	3	9	4.7	7
7. 技術力	8. 研究開発	9. モラルと裏付け	10. リストラ	11. 株式占有・経営者	
4	2	45	21	19	
この企業に投資した理由				総合評価点数	
<p>基地問題や有効求人倍率の低さなど数多くの問題を抱える沖縄の一番の産業である「観光」を担う企業として活躍して欲しいと思購入。個人旅行を主に、法人・団体向けの旅行も強化。HISは積極的に海外旅行を売っているのが特徴で、「一人でも多く海外を訪れその国を知ってほしい」というポリシーもある。</p> <p>そのポリシーはそのままに沖縄県を日本のアジアリゾートの窓口として、県の活性化と国際的な繋がりを強化していってほしいと思う。</p>				財務	58.4点
				テーマ	85.0点
				<b>143.4点</b>	

今回、私たちは企業の財務状態、経営成績だけではなく、その企業の「徳（モラル）」も同じ程度評価したいと考えた。具体的には、普段投資の際あまり考えられないであろう、その企業の大株主の状況について調査し、徳（モラル）を測る重要なポイントとした。

大株主の状況を調べることで、その企業が個人、法人によって私物化されていないかどうかを知ることができ、私たちの投資が本当にその企業全体、ひいては地域・社会全体のためになるかということが分かる1つの材料と考えた。

株式が個人、法人によって大量に保有されていると、私たちの投資により企業が利益を上げることができ株価が上昇しても、その大量保有する個人や法人の資産だけが優先的に増えてしまうことになる。

各道州全ての幸せを考えたい私たちにとって、この項目は一番忘れてはならないものであると考え、「日経会社情報」で、全20社の大株主のトップ10を調べ、それを抜粋した表を作成し、チェックした。(表3-1)

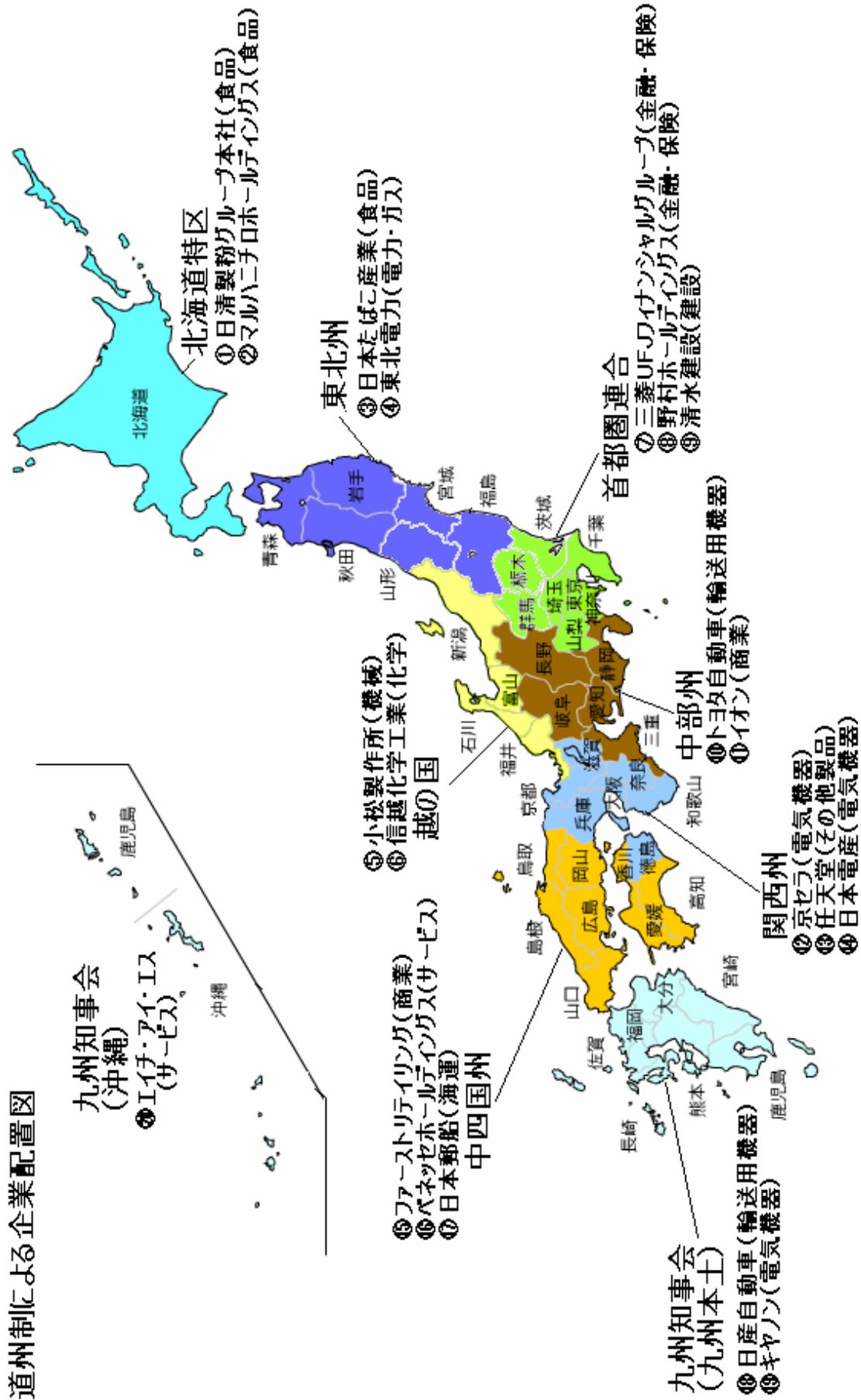
(表3-1) 抽出20社の現在の大株主ベスト10 (日経「会社情報」2009秋号より)

	1. 日清製粉	2. マルハニチロ	3. JT	4. 東北電力	5. 小松製作所
1	日本トラスティ信託口 8.0	大東通商 10.2	財務大臣 50.0	日本トラスティ信託口4G 4.9	日本トラスティ信託口 6.3
2	三井住友海上 4.3	農林中金 3.7	日本トラスティ信託口 2.7	日本トラスティ信託口 4.9	日本マスター信託口 5.2
3	取引先持株会 4.2	日本トラスティ信託口4G 3.4	日本トラスティ信託口4G 2.6	日本生命 3.9	日本トラスティ信託口4G 4.9
4	三井生命 4.0	みずほコーポ 3.1	日本マスター信託口 2.1	日本マスター信託口 2.7	太陽生命 4.2
5	日本トラスティ信託口4G 3.8	日本トラスティ信託口 3.0	ステート・ストリート505223 1.7	持株会 2.0	日本生命 3.3
6	日本マスター信託口 3.5	日本生命 2.6	みずほ退職 1.7	みずほコーポ 1.4	三井住友銀行 1.8
7	ダスキン 2.9	東京海上日動 2.3	ステート・ストリート 1.3	みずほ銀行 1.4	JPモルガン・チェース 1.8
8	三井物産 2.8	日本マスター信託口 1.9	ドイツ銀行(ロンドン) 1.2	高知信金 1.2	ニューヨーク銀行メロン 1.5
9	三井住友銀行 2.6	東洋製罐 1.7	チェース(ロンドン) 1.2	信金中央金庫 1.2	日本興亜損保 1.4
10	みずほコーポ 2.4	日本トラスティ信託口4 1.7	チェース 0.7	七十七銀行 1.1	持株会 1.1
	自社保有株 4.0	自社保有株 0.1	自社保有株 4.2	自社保有株 0.9	自社保有株 3.0
	6. 信越化学工業	7. 野村HD	8. 三菱UFJ	9. 清水建設	10. トヨタ自動車
1	日本マスター信託口 9.6	日本トラスティ信託口 6.2	日本トラスティ信託口 5.8	清水地所 7.6	日本トラスティ 10.2
2	日本トラスティ信託口 8.3	日本マスター信託口 5.8	日本トラスティ信託口4G 5.5	日本トラスティ信託口 7.4	豊田自動織機 5.8
3	日本生命 5.6	日本トラスティ信託口4G 5.4	日本マスター信託口 4.2	日本マスター信託口 5.9	日本マスター 5.6
4	日本トラスティ信託口4G 4.8	チェース(ロンドン)オムニバス 1.9	日本生命 2.5	清水基金 4.8	日本生命 3.8
5	日本トラスティ信託口4 2.8	ニューヨーク銀行 1.6	ニューヨーク銀行 2.3	日本トラスティ信託口4G 4.7	ステート・ストリート 3.5
6	八十二銀行 2.7	日本トラスティ信託口4 1.2	明治安田生命退職 1.5	持株会 2.5	ニューヨーク銀行メロン 2.5
7	明治安田生命 2.7	チェース385036 1.1	トヨタ自動車 1.3	住宅総合研究財団 2.2	資産管理信託 2.5
8	日本興亜損保 1.9	ステート・ストリート505103 0.9	明治安田生命 1.2	日本トラスティ信託口4 2.1	東京海上日動 2.4
9	JPモルガン・チェース 1.7	ステート・ストリート505223 0.8	チェース(ロンドン) 1.1	みずほコーポ 2.1	三井住友海上 1.9
10	三菱東京UFJ銀行 1.6	インベスターズバンク 0.8	三菱重工退職 1.0	第一生命 1.3	JPモルガン・チェース 1.8
	自社保有株 1.8	自社保有株 2.1	自社保有株 0.0	自社保有株 0.3	自社保有株 9.1
	11. イオン	12. 任天堂	13. 京セラ	14. 日本電産	15. ファーストリテイリング
1	日本トラスティ信託口 5.2	山内溥 10.0	ステート・ストリート 7.1	日本マスター信託口 8.3	柳井正 26.7
2	三菱商事 5.0	京都銀行 4.5	日本トラスティ信託口 6.5	永守重信 8.2	日本マスター信託口 8.5
3	日本トラスティ信託口4G 5.0	日本トラスティ信託口 4.3	日本マスター信託口 6.2	日本トラスティ信託口 8.0	日本トラスティ信託口 6.6
4	みずほコーポ 3.0	日本トラスティ信託口4G 4.1	日本トラスティ信託口4G 5.1	日本トラスティ信託口4G 4.1	柳井一海 4.5
5	日本マスター信託口 2.9	野村信託退職 3.4	京都銀行 3.8	京都銀行 4.1	柳井康治 4.5
6	イオン環境財団 2.6	日本マスター信託口 2.9	稲盛和夫 3.6	エス・エヌ興産 3.8	Fight&Step 4.5
7	岡田文化財団 2.5	ステート・ストリート 2.3	三菱東京UFJ銀行 2.7	第一生命 3.0	MASTERMIND 3.4
8	農林中金 2.3	日本トラスティ信託口 2.2	稲盛財団 2.4	三菱東京UFJ銀行 2.4	日本トラスティ信託口4G 2.6
9	持株会 1.4	退職給付信託口 2.1	シティバンク 2.0	日本生命 2.3	モルガン・ホワイトフライヤーズ 2.3
10	ステート・ストリート 1.2	メロンバンク・オムニバス 1.8	ケイアイ興産 1.9	明治安田生命 2.2	資産管理信託 2.2
	自社保有株 4.4	自社保有株 9.7	自社保有株 4.1	自社保有株 4.0	自社保有株 4.0
	16. ベネッセ	17. 日本郵船	18. 日産	19. キヤノン	20. HIS
1	野村信託 13.7	日本マスター信託口 6.7	ルノー 44.3	第一生命 5.6	澤田秀雄 28.0
2	日本トラスティ信託口 12.1	日本トラスティ信託口 6.5	日本トラスティ信託口4G 3.5	日本トラスティ信託口 5.1	CBNYオービスSICAV 7.5
3	日本マスター信託口 5.4	日本トラスティ信託口4G 6.0	日本トラスティ信託口 2.9	日本トラスティ信託口4G 4.6	秀インター 5.4
4	福武信子 2.6	東京海上日動 4.7	日本マスター信託口 2.1	モクスレイ&Co. 4.5	日本トラスティ信託口 4.7
5	福武純子 2.5	三菱重工退職 4.4	日本生命 2.1	日本マスター信託口 3.7	日本マスター信託口 3.6
6	福武教育文化振興財団 2.3	明治安田生命 3.2	東京海上日動 1.6	JPモルガン・チェース380055 2.3	日本トラスティ信託口4G 2.7
7	中国銀行 2.1	三菱東京UFJ銀行口 3.0	損保ジャパン 1.4	みずほコーポ 1.9	澤田まゆみ 2.0
8	直島福武美術館財団 2.0	みずほコーポ 1.9	第一生命 1.0	ステート・ストリート 1.7	CBNYオービスF 1.8
9	福武美津子 2.0	資産管理信託投信口 1.5	メロンバンクUSベンション 1.0	損保ジャパン 1.7	行方一正 1.5
10	チェース(ロンドン) 1.9	全共連 1.5	ステート・ストリート 0.9	ステート・ストリート505225 1.3	澤田秀太 1.0
	自社保有株 7.0	自社保有株 0.1	自社保有株 3.0	自社保有株 7.4	自社保有株 5.3

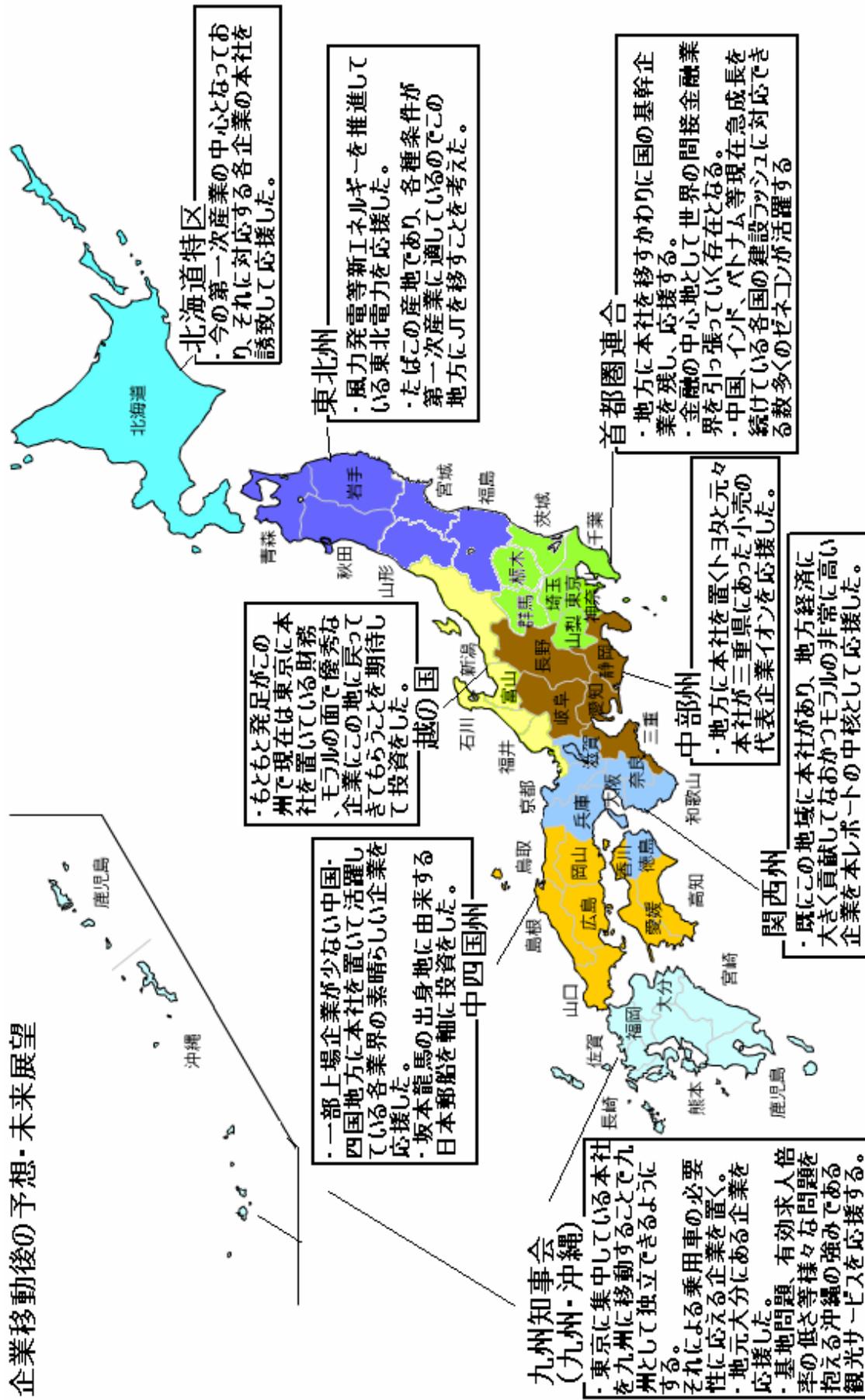
最後に、私たちが考えた各道州の役割について、“グローバル”マップを用いて整理した。

(図3-1、図3-2、図3-3、図3-4)

(図3-1) 道州制による企業の配置図

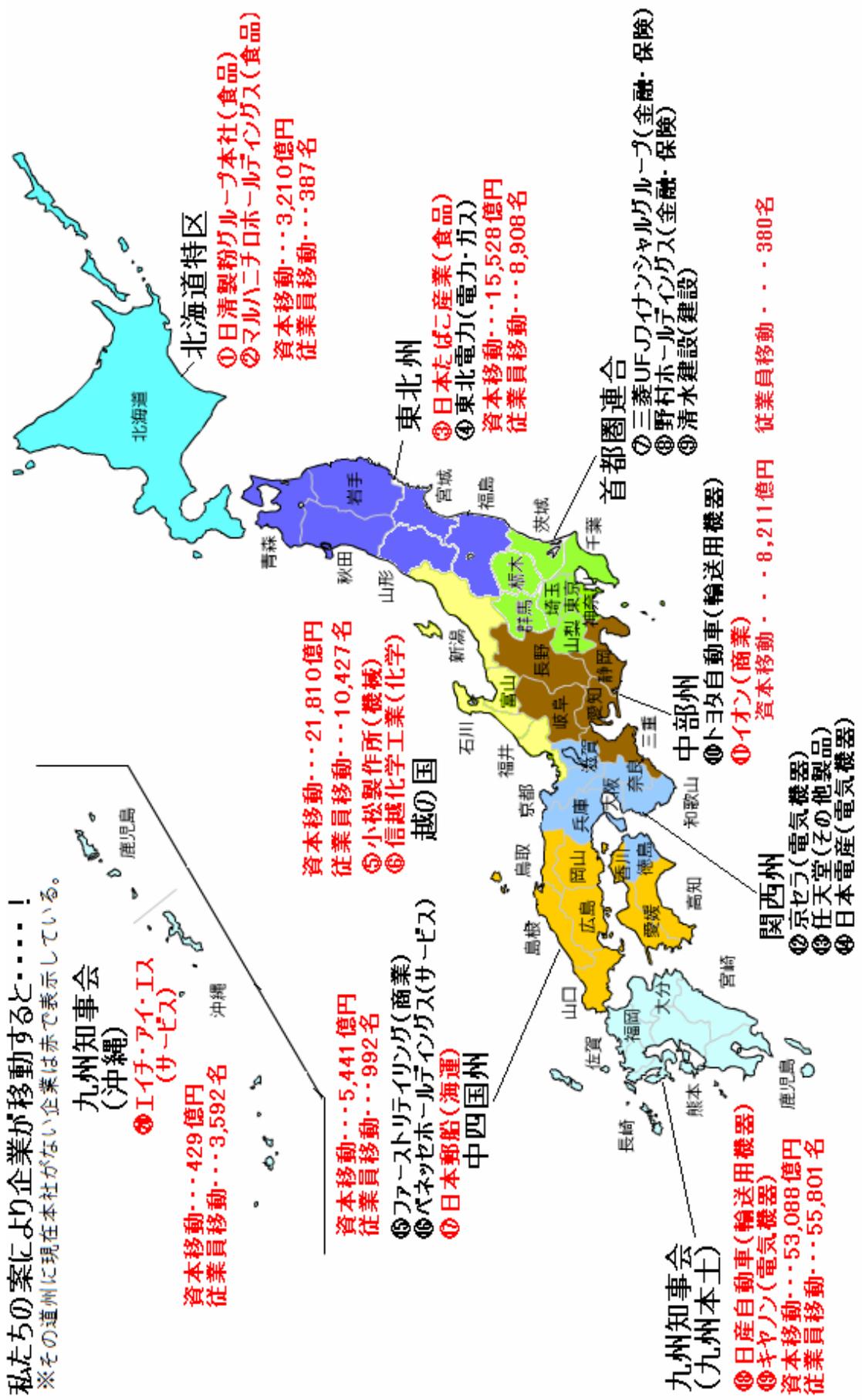


(図3-2) 私たちが各道州に求めること、企業移動後の予想・課題

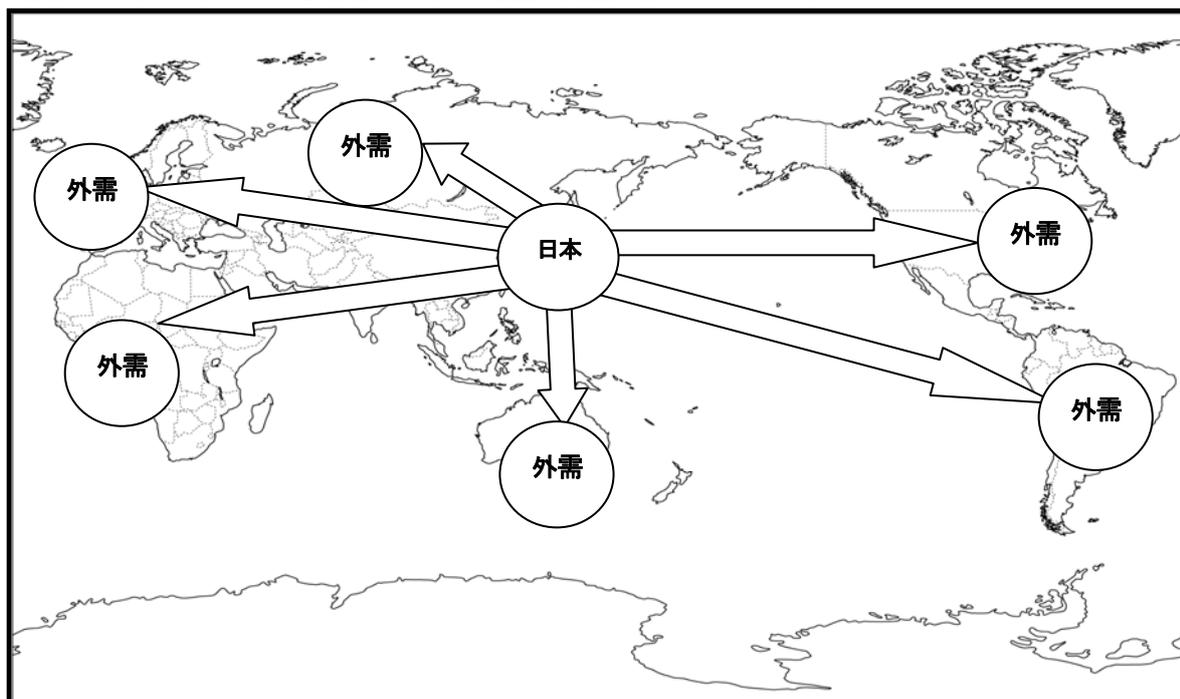


企業移動後の予想・未来展望

(図3-3) 私たちの案で企業・工場が移動すると・・・(ここでの数値は全て単体)



(図3-4) ポートフォリオ20社の外需と内需のグローバルマップ



(表3-2) 全20社の「外需」と「内需」の売上比較（海外売上比率の降順で整理）

銘柄名	総売上高	国内売上高	国内売上比率	海外売上高	海外売上比率	備考
日本電産	268,743	34,792	13%	233,951	87%	
野村HD	599,169	186,926	32%	412,243	68%	
小松製作所	645,963	225,427	35%	420,536	65%	
信越化学工業	417,229	165,646	40%	251,583	60%	
京セラ	483,903	199,716	42%	284,187	58%	
任天堂	1,044,038	494,709	48%	549,329	52%	
日産自動車	3,383,373	1,696,216	51%	1,687,157	49%	
日本たばこ産業	3,054,254	1,931,461	55%	1,383,890	45%	
トヨタ自動車	8,377,643	4,838,127	58%	3,539,516	42%	
日本郵船	794,519	595,449	75%	199,070	25%	
三菱UFJFG	2,618,434	2,045,727	79%	572,707	21%	注2
キヤノン	2,255,143	1,774,943	79%	480,200	21%	
ベネッセHD	105,833	89,418	85%	16,415	15%	
マルハニチロHD	405,288	374,726	88%	48,845	12%	
日清製粉G	226,878	204,190	90%	22,687	10%	注1
清水建設	708,555	637,699	90%	70,856	10%	注1
ファーストリテイリング	537,025	481,131	90%	55,894	10%	
イオン	2,526,681	2,312,146	92%	214,535	8%	
エイチ・アイ・エス	232,118	215,795	93%	16,323	7%	
東北電力	804,225	804,225	100%	0	0%	

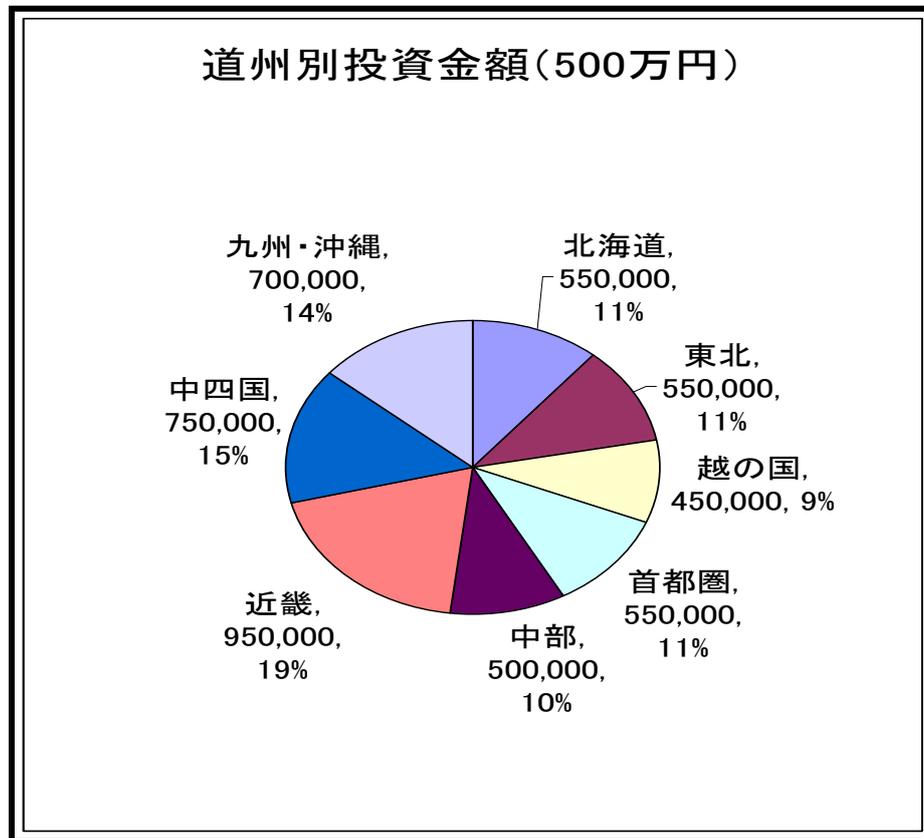
注1) 海外売上高が連結売上高の10%以下であるため表示を省略しているためここでは10%と仮定して表示する。

注2) ここでの売上高は経常収益のことを指す。

## IV ポートフォリオの客観分析

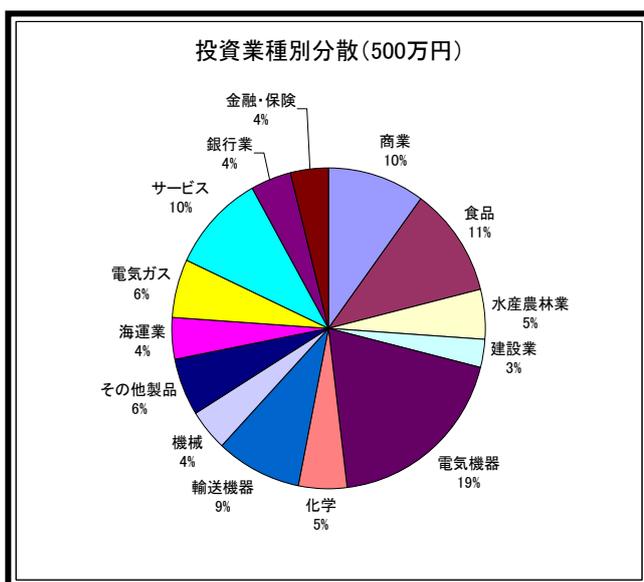
本ポートフォリオ（500万円の分散）をまず、以下の3つ（道州制別・投資業種別・投資目的別）のグラフで整理する。

### 1. 道州制別投資金額構成



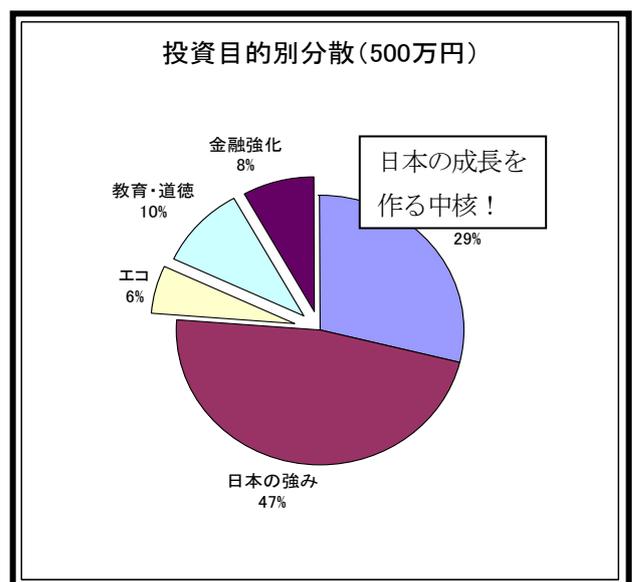
(図4-1) 道州別投資金額分散グラフ

### 2. 投資業種別金額構成



(図4-2) 投資業種別分散グラフ

### 3. 投資目的別金額構成



(図4-3) 投資目的（5本柱）別分散グラフ

#### 4. 道州制別銘柄チャート

※ ( ) 内はポートフォリオ設定期間中の株価の最大上昇率

各道州で、期間中最も値上がりした1社のみを抜粋し、チャート(日足90日)にして分析した。

(1) 「[北海道特区]日清製粉グループ本社(最大+9%)



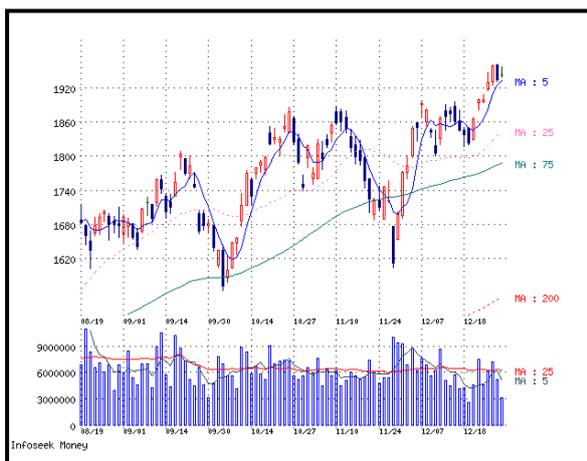
(図4-4) 「[北海道特区]のトップ銘柄

(2) [東北州]日本たばこ産業(最大+29%)



(図4-5) [東北州]のトップ銘柄

(3) [越の国]小松製作所(最大+15%)



(図4-6) 「[越の国]のトップ銘柄

(4) [首都圏]清水建設(最大+12%)



(図4-7) [首都圏]のトップ銘柄

(5) [中部州]トヨタ自動車(最大+13%)



(図4-8) 「[中部州]のトップ銘柄

(6) [州]京セラ(最大+21%)



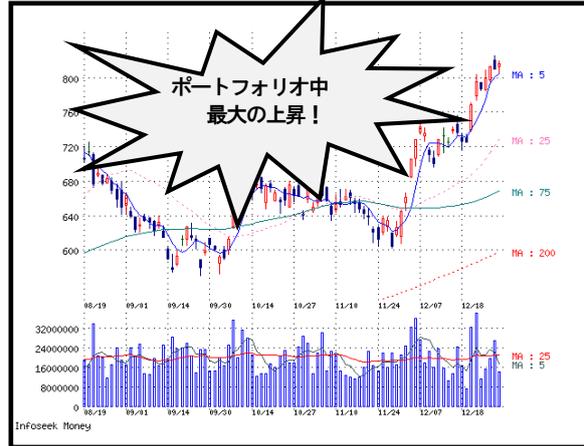
(図4-9) [関西州]のトップ銘柄

(7) [中四国]ファーストリテイリング (最大+13%)



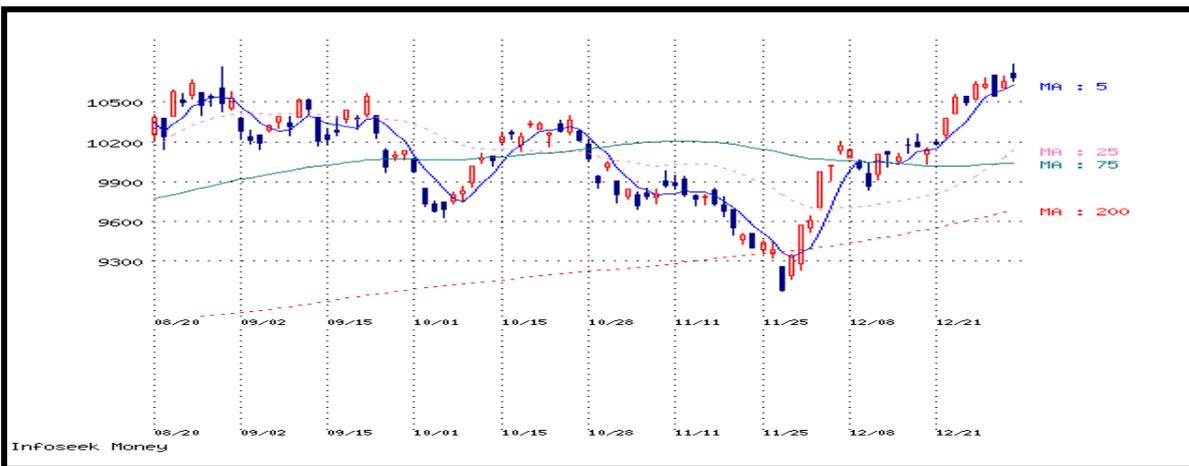
(図4-10) 「[中四国]」のトップ銘柄

(8) [九州・沖縄]日産 (最大+30% ※最高)



(図4-11) [九州・沖縄]のトップ銘柄

5. 日経平均株価チャート (日足90) 下記期間中で、9%平均株価の上昇



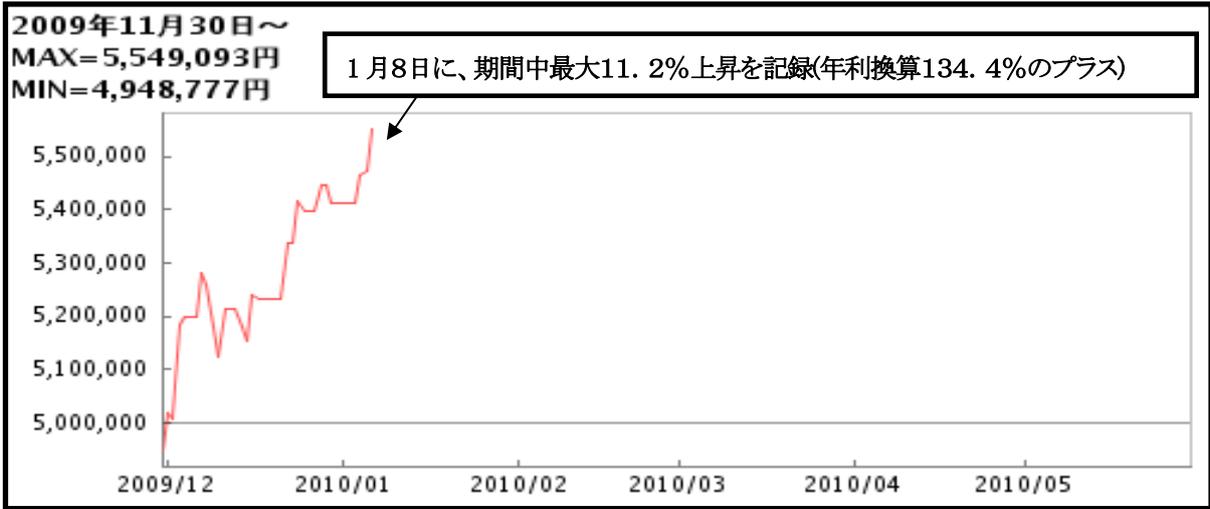
(図4-12) 2009年8月~2010年1月8日現在 (日足90)

6. 全20銘柄個別株価の動き (表4-1) 2010年1月5日現在の一覧状況

	購入日	銘柄名	取得単価	取得株数	取得金額	終値	現在の株数	評価額(円)
北海道	2009/11/30	マルハニチロホールディングス (東証1部)	126	1,963	247,338	130	1,963	255,190
	2009/11/30	日清製粉グループ本社 (東証1部)	1,170	253	296,010	1,238	253	313,214
東北	2009/11/30	東北電力 (東証1部)	1,827	162	295,974	1,865	162	302,130
	2009/11/30	日本たばこ産業 (東証1部)	255,800	0.9	230,220	320,500	0.9	288,450
越の国	2009/11/30	信越化学工業 (東証1部)	4,690	52	243,880	5,370	52	279,240
	2009/11/30	小松製作所 (東証1部)	1,698	116	196,968	1,954	116	226,664
関東域	2009/11/30	野村ホールディングス (東証1部)	622	318	197,796	694	318	220,692
	2009/11/30	三菱UFJフィナンシャル・グループ (東証1部)	482	410	197,620	452	410	185,320
	2009/11/30	清水建設 (東証1部)	299	496	148,304	339	496	168,144
中部	2009/11/30	トヨタ自動車 (東証1部)	3,440	86	295,840	3,805	86	327,230
	2009/11/30	イオン (東証1部)	696	284	197,664	757	284	214,988
近畿	2009/11/30	任天堂 (東証1部)	21,600	13	280,800	22,840	13	296,920
	2009/11/30	京セラ (東証1部)	6,880	57	392,160	8,460	57	482,220
	2009/11/30	日本電産 (東証1部)	7,560	32	241,920	8,630	32	276,160
中国四国	2009/11/30	ファーストリテイリング (東証1部)	15,680	18	282,240	16,900	18	304,200
	2009/11/30	日本郵船 (東証1部)	269	735	197,715	296	735	217,560
	2009/11/30	ベネッセホールディングス (東証1部)	3,900	63	245,700	3,895	63	245,385
九州・沖縄	2009/11/30	日産自動車 (東証1部)	626	237	148,362	803	237	190,311
	2009/11/30	キヤノン (東証1部)	3,330	89	296,370	3,975	89	353,775
	2009/11/30	エイチ・アイ・エス (東証1部)	1,694	146	247,324	1,740	146	254,040

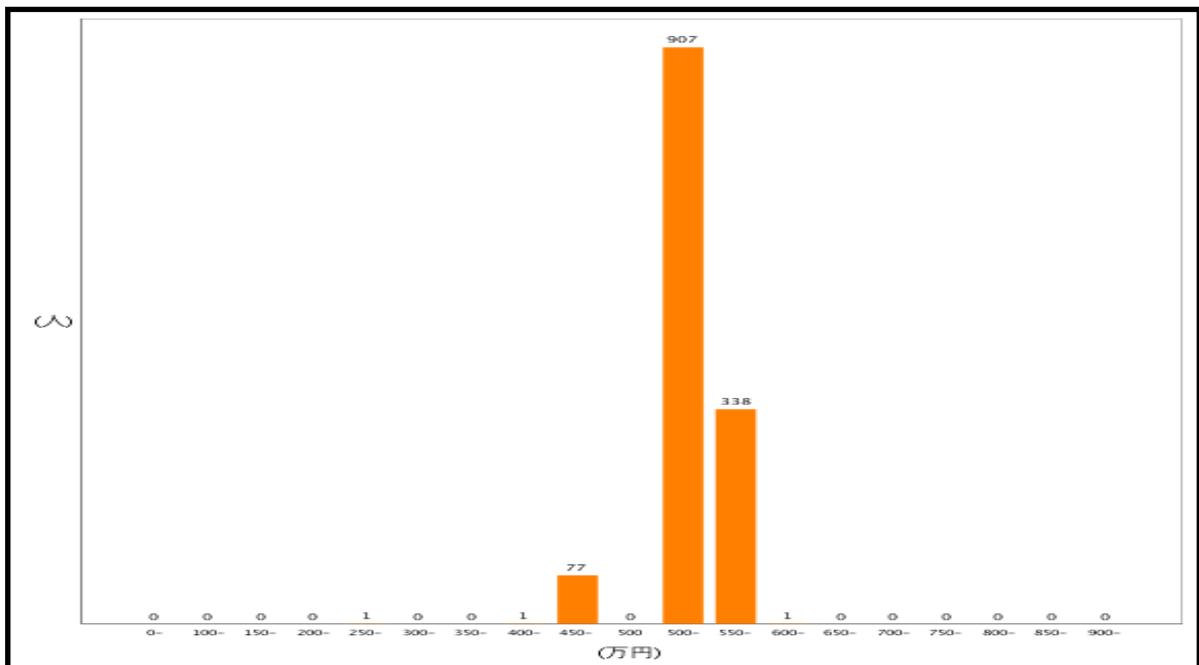
## 7. ポートフォリオ設定後のパフォーマンス

(図4-13) 2009年11月30日設定から2010年1月8日までの値動き



(表4-2) 2010年1月8日時点の評価額

SL100204 さんの評価額:	5,559,199 円	↑ 平均値を3.9%越え
平均評価額:	5,361,797 円	



↑ あなたはここ 5,559,199 円

↑ 平均はここ (310番 / 1,325人中)

(図4-14) 2010年1月8日の評価額の分布 (本ポートフォリオの最終状況)

設定期間中、参加全1,325チーム中、常時200~300位台に定着し、安定していた。

## V ポートフォリオの分析と総括（“富国”と“強徳”に関する総括）

本ポートフォリオを、テーマである“富国強徳”の面から分析、総括を以下のようにまとめた。

### 1 “富国”についての考察（各道州の投資成果）

8道州を資本で元気にしながら、日本の活性化を目指す点については、以下の表の通り、全ての地域で利益を上げることができた。日経平均株価が上昇した追い風環境もあったが、それを差し引いても全20銘柄中18銘柄がプラスとなり、道州平均でも約1ヶ月で8.5%の利益を上げられ、豊かさに確かな手応えを得ることができた。ちなみに最高は、関西州と九州の15.3%も上昇した。

特に、CEOのC. ゴーン氏の強力なリーダーシップの下、今年8月に銀座から創業の地、横浜に本社移転した日産自動車がポートフォリオ中、最大の約30%上昇したのは、企業からは少数意見だったが私たちの信念をもって取り組んだ、本テーマ（“資本主導”による地域活性化）を証明してくれたようで、勇気づけられ、とても嬉しかった。（表5-1）

（表5-1）各道州別の投資成果

ポートフォリオ(12月1日～1月5日)1月5日現在							
道州制	企業名	取得金額	現在の評価額	変動率	道州ごとの変動率	利益額	道州ごとの利益額
北海道特区	マルハニチロHD	247,338	255,190	3.2%	4.6%	7,852	25,056
	日清製粉グループ本社	296,010	313,214	5.8%		17,204	
東北州	日本たばこ産業	255,800	288,450	12.8%	7.0%	32,650	38,806
	東北電力	295,974	302,130	2.1%		6,156	
越の国	信越化学工業	243,880	279,240	14.5%	4.8%	35,360	65,056
	小松製作所	196,968	226,664	15.1%		29,696	
首都圏連合	三菱UFJFG	197,664	185,320	-6.2%	5.6%	-12,344	30,392
	野村HD	197,796	220,692	11.6%		22,896	
	清水建設	148,304	168,144	13.4%		19,840	
中部州	トヨタ自動車	295,840	327,230	10.6%	9.9%	31,390	48,714
	イオン	197,664	214,988	8.8%		17,324	
関西州	京セラ	392,160	482,220	23.0%	15.3%	90,060	140,420
	任天堂	280,800	296,920	5.7%		16,120	
	日本電産	241,920	276,160	14.2%		34,240	
中四国州	ベネッセHD	245,700	245,385	-0.1%	5.7%	-315	41,490
	ファーストリテイリング	282,240	304,200	7.8%		21,960	
	日本郵船	197,715	217,560	10.0%		19,845	
九州知事会	キャノン	296,370	353,775	19.4%	15.3%	57,405	106,070
	日産自動車	148,362	190,311	28.3%		41,949	
	エイチ・アイ・エス	247,324	254,040	2.7%		6,716	
合計		4,905,829	5,401,833				
			平均	10.1%	8.5%	24,800	62,001

20銘柄中18社が上昇。8道州すべての道州で利益をあげることができた。(道州平均8.5%)  
(年利換算102%のUP)

### 2 “強徳”への投資についての考察

混迷の日本市場の中で、今回、強徳（モラル）にウエイトを置いた抽出銘柄と値上がりには相関関係があったか。（分析・総括）P17の個別銘柄のモラルで“AAA”を付けた5つの企業が、どのように株価が変化したかを確かめた。

本ポートフォリオ平均は、10.1%プラスのだったが、“AAA”5社中、何と4社が平均を大きく上回った。残念ながら、三菱UFJだけが、-6.2%となったが、設定期間中における“間接金融”の位置づけが厳しかったものとして分析しているので落胆はない。（表5-2）

（表5-2）“強徳”についての考察（モラル“AAA”と期間中の株価の考察）

モラル順位	道州	企業	取得金額	現在の評価額	変動率	値上がり総合順位
1	関西州	京セラ	392,160	482,220	23.0%	2
2	越の国	信越化学工業	243,880	279,240	14.5%	3
3	関西州	日本電産	241,920	276,160	14.2%	6
4	首都圏	野村HD	197,796	220,692	11.6%	9
5	首都圏	三菱UFJFG	197,664	185,320	-6.2%	20

## VI STOCKリーグのまとめ（学んだこと）

第10回記念大会にあたって、過去9回の沢山の貴重な入賞レポートを読みながら、今の日本、株式市場を考え、敢えて大きな課題に挑戦した。山積する課題や複雑に絡み合った様々な問題に多くの議論を交わしながらの調査と研究は莫大な時間がかかったが、最終的には4人が満足できるポートフォリオを完成し、分析することができた。

最後に、私たちがこの学習を通じて学んだことを本県出身の偉大な福沢諭吉先生に倣い“株式投資（学習）のすゝめ”20カ条にまとめてみた。（図6-1）（図6-2に詳細解説）

### ● “株式投資（学習）のすゝめ” 20カ条

- 第1条 “独立自尊”の精神が、何事も大事である。（国や他人任せにはしてはいけない）
- 第2条 常に夢や志を高く持ち続け行動する企業に投資する事。
- 第3条 無駄をせず、経営環境の変化に柔軟に対応し続ける企業に投資する事。
- 第4条 基礎・基本が大切であり、投資家は数字を自ら分析し本質を理解するよう努める事。
- 第5条 学問の楽しさを取り戻し、自ら考え克服する努力を怠らない事。
- 第6条 株式投資は、「経済の植林活動」（究極のエコ）である事。
- 第7条 投資による企業の活性化なくして、富国（景気回復）はあり得ない事。
- 第8条 地方がアイデンティティを取り戻す事が、この国の長期的発展に繋がる事。
- 第9条 徳（モラル）に重点を置いた投資しか長期的には繁栄を持続できない事。
- 第10条 「雇用は最大の社会貢献」である事。
- 第11条 この国の高齢者が満足を得られる社会実現への投資を行う事。
- 第12条 小さい頃から金融教育を推進し、本物を見抜く学びが大切である事。
- 第13条 株式投資は決してギャンブルではない事を強く自覚する事。
- 第14条 プリンシプル（原理・原則、信条）、ノブレス・オブリッジ（高い地位にある者の負う義務）の重要性を認識した上で、投資を行う事。
- 第15条 株式投資は自分の国が成長・発展し、“未来”を読めるようになる事。
- 第16条 家計→企業→政府→家計という投資の好循環が成長を生む事。
- 第17条 良い経営をする企業に投資し続ければ、過度な“財政削減”は減る事。
- 第18条 仲間と真に連携する為には、苦勞を共有する長い時間が不可欠である事。
- 第19条 何事もあきらめず努力すると、道は開ける事。
- 第20条 STOCKリーグは、株だけではなく、日本、世界へと視野が広がっていく事。

（図6-1）

## (図6-2) “株式投資(学習)のすゝめ” 20カ条の解説

第1条 “独立自尊”の精神が、何事も大事である。(国や他人任せにはいけない)

自分たちの生活が豊かになることを、国や地方だけに任せるのもおかしいし、完了や政治家に責任転嫁するのも問題がある。自分たちの住む地域(国)に自分たちが、責任を持つ自治を考えていくことが重要だ。(今こそ、“独立自尊”を叫ぼう)

第2条 常に夢や志を高く持ち続け行動する企業に投資する事。

個人も企業の人生(経営)も結局は、夢や志の高さを維持できるかが大切だと気づいた。それを欠けば、一時的には利益を得られても、最も大切な信用を得られずに、長続きはしない。そんな企業を見抜いて投資をすると、結果的には、私たちが幸せになれると感じた。

第3条 無駄をせず、経営環境の変化に柔軟に対応し続ける企業に投資する事。

どんなに利益が出ていても、経営者や社員に無駄やコストへの高い意識がないと、ますますグローバル化し、不透明な時代の変化に対応できない。よい経営者やリーダーは、その意識が高く、しっかりビジョンを持っていると感じた。

第4条 基礎・基本が大切であり、投資家は数字を自ら分析し本質を理解するよう努める事。

世論(多数派)に負けずに、自分の行動や投資に信念を持つためには基礎・基本の理解が不可欠である。W. バフェットの言葉にある通り、“Mr. マーケットに振り回されない”ためには、自分の力で各種の指標(数字)を分析する力は不可欠である。数字は嘘をつかない。それを見抜く力が大切である。

第5条 学問の楽しさを取り戻し、自ら考え克服する努力を怠らない事。

本来の学問(学び)の意味を実体験で感じられた。自ら課題を定めて、徹底的に研究し、自ら考え、その中で出てくる壁を一つ一つ乗り越えていく。そこで学びとれた知識や技術に、本当の学ぶ楽しさがある。その努力を怠らないことが大切だ。

第6条 株式投資は、経済の植林活動(究極のエコ)である事。

この学習によって、株式投資は、経済における植林活動(究極のエコ)だと思えるようになった。これが今の日本の大人にも理解されていないような気がする。日本の教育に金融教育を取り入れることでどんなメリットがあるのか。それは自分たちがこれから社会人になって実践していくことによって、証明したい。

第7条 企業の活性化なくして、富国(景気回復)はあり得ない事。

株式投資は、経済における植林活動であり、その行動なくして企業の活性化や成長はない。企業の成長から国の税収も上がり、労働者の所得も上がり、家計が潤い、消費や税収など上がり好循環(富国)が生み出され、景気は回復するものだ。政府や他人任せの発送では、日本の本格的な景気回復はあり得ないと思う。

この基本サイクルをみんなの手で造っていいことが大切だ。

第8条 地方がアイデンティティを取り戻す事が、この国の発展に繋がる事。

戦後から過度に進んだ首都圏一極集中社会で、地方にアイデンティティを取り戻す地方分権、そして道州制への移行を、みんな（自分たち）の力で推進してみてもどうだろうか。“地方が枯れて”、豊かな首都圏（東京）だけが、アイデンティティを持ち続けることなど、長期的にはあり得ない。

第9条 徳（モラル）に重点を置いた投資しか長期的には繁栄を持続できない事。

徳（モラル）が、企業（経営する側）にも、それを評価する個人（投資家側）にも大変重要であり、その関係がとれた企業でなければ、50年、100年といった、長期にわたる繁栄は歴史的にみても持続できない。企業だけでなく、私たちの徳（モラル）への考え方がとても大切だ。

第10条 「雇用は最大の社会貢献」である事。

各企業はいろいろな社会貢献活動（CSR）等を行うようになってはきたが、日本電産の永守社長も言うとおりの、“雇用こそが最大の社会貢献である”と実感した。安易なりストラ等で利益を上げる企業ではなく、私たちの生活と共生できる企業を評価していきたい。単に、グローバルスタンダードという美名だけに合わせるのではなく、特に日本社会では、“和をもって尊しとなす”という理念を大事にした、世界に誇れる日本的資本主義のあり方を追求してもいいのではないだろうか。

第11条 高齢者が満足を得られる社会実現への投資を行う事。

団塊の世代が退職して高齢化が進んでいるが、戦後この国の復興に力を尽くした高齢者の方が、最後に満足を得られない社会では、結局若者も魅力を持たないと思う。個人金融資産の約6割を60歳以上の人をもつこの国で、高齢者が満足感を得られるような政策や企業経営、行動が、この国の繁栄には不可欠である。

第12条 小さい頃から金融教育を推進し、本物を見抜く学びが大切である事。

「自ら学ぶこと」、「自ら考えること」を学べる日本になって欲しいし、自分たち若者がそういう世の中を作っていきたい。資本主義社会において、この国を豊かにする元は“企業”であり、それを手助けするのが政府、そして家計であることを考えた時、幼い頃から金融教育で、そのような基本を身に付けることがとても大切である。

第13条 株式投資は決してギャンブルではない事を強く自覚する事。

第6条でも述べた通り、株式投資の本質は「経済の植林活動」であり、上がったたり下がったりするからといって、決してギャンブル（競馬や競輪等）ではない。しかし、日本では今までの大人はきちんとした金融教育を受けていないため、株＝デイトレーダー的なイメージが強く、その意識が薄いといえる。「経済の植林活動」（究極のエコ）といえる、株式投資の本質を強く自覚したい。

第 14 条 プリンシプル（原理・原則、信条）やノブレス・オブリッジ（高い地位にある者の負う義務）の重要性を認識した上で、投資を行う事。

昨年、戦後処理にあたった白州次郎氏が脚光を浴びたが、今の日本には上記の精神が欠けてしまっているように思う。株式市場で財をなした世界第 2 位の資産家である W. バフェット氏が、まさに自分自身のプリンシプルや成功した後もノブレス・オブリッジを実践している生き方は大いに参考にしたい。「お金との向き合い方」これができないと金銭的には成功しても、人生的には人は幸福を満たせないように思う。

第 15 条 株式投資は自分の国が成長・発展し、“未来”を読めるようになる事。

投資こそが、直接自らの手で自国経済を成長・発展させられる行動であり、その具体的な行動を上手にいていくには、いろいろな意味で、“未来”を読んでいく能力を磨いていくことが不可欠だ。

第 16 条 家計→企業→政府→家計 という好循環が成長を生む事。（自身が主役）

社会科で、“経済の 3 主体”までは習ってきたが、その大元は家計（私たち自身）だと気づいた。“政府”が“企業”がと批判的になる前に私たちの生活を豊かにするのは「私たち自身」だということを強く認識することが出発点だと考えた。自分の手（投資活動・勤労等）でという意識が日本に好循環を作り出すことの大切さを学んだ。

第 17 条 良い経営をする企業に投資し続ければ、過度な“財政削減”は減る事。

自らのお金儲けだけでなく、この国の為に少しでもお金を出せる人がいればいるほど、この国は発展していくと思う。今こそ、福沢先生の「独立自尊」の精神を思い出し、社会的にも良い経営をする企業に投資し続ければ、過度な“財政削減（収縮型の経済社会）”を叫ばなくても良い社会が実現すると思った。

第 18 条 仲間と真に連携する為には苦勞を共有する長い時間が不可欠である事。

学校の課題研究選択授業でたまたま集まった今まで株とは全く無縁だった私たちが、この国や私たちの地域を幸せにする投資はないかと考え、多くの壁にぶつかりながらも助け合いながら学習するうちに、コミュニケーションが深まり、真の友達となっていた。苦勞した時間を共有することが信頼関係構築には不可欠だと感じた。

第 19 条 何事もあきらめず努力すると、道は開ける事。

18 条に書いたが、1 年間ニューヨークをめざして第 10 回大会に向け、大きなテーマに挑戦していく中、何度もあきらめそうになった。考えややりたいことがごちゃごちゃになり、これで株式抽出やレポート提出のゴールまで辿り着けるのか、何度も不安になった。しかし最後まで諦めず、4 人で協力し最後のレポート完成まで、辿りつけたことは、大きな自信と忘れることができない思い出となった。何事も諦めず、努力していると道は開ける事を実感できた。

第 20 条 STOCK リーグは、株だけではなく、日本、世界へと視野が広がる事。

STOCK リーグに本校が参加して通算 5 回目となる。歴代の先輩たちも優秀なレポートを提出しており、株式に全く無知だった私たちはプレッシャーを感じながらの参加だった。ただ、過去の先輩たちも感じていたように、この学習を終えると今まで全く興味がなかった株式だけの知識だけでなく、日本や世界の政治・経済、出来事まで興味を持ち始め、目を向けられるようになった。最も大きな収穫の 1 つであり成長だった。 私たちも大きく成長できた、STOCK リーグに心から感謝したい！

以上が、このSTOCKリーグを通じて、私たちが学んだことのまとめである。併せて道州制や住みやすい街のランキングを調査する中で、日本の各地域には素晴らしい歴史や文化や伝統、風土があり、価値観は異なるが満足感や誇りをもっていることの一部も知ることができたことはとても勉強になった。同時に、自分たち自身のアイデンティティの大切さも再認識することができたように思う。

これからお互いの進路は分かれるが、今回の学習を自信にしてこれからも金融や経済の勉強を深め、周囲に流されることなく、自分の考えで行動していける大人に成長していきたいと思う。

### ●【巻末資料(表6-1)】 表紙に掲げた金融経済に関する偉人の紹介

名 前	人物紹介	調査担当 メンバー	主な業績等
聖徳太子	推古天皇の摂政として実際の政治を行い、日本の礎をつくった。	佐久間	「冠位十二階」の制定、「十七条憲法」の制定等、日本の基礎を形成した。
織田信長	戦国大名の一人。画期的な政策・戦略を多く断行し、天下統一を目指した。	小野	「楽市楽座」を行い、市場の活性化を行った。南蛮貿易を積極的に行った。
上杉鷹山	米沢藩第9代藩主。著しい財政難だった米沢藩再生の立役者。	佐久間	破綻寸前の米沢藩再生に民と共に質素儉約で自ら働き、尽力した。
二宮尊徳 (二宮金次郎)	農村復興政策を指導した農政家・思想家	佐久間	報徳仕法(農村復興政策)を行い、小田原藩の財政を立て直した。
西郷隆盛	薩摩藩出身の英雄、江戸城無血開城他、明治維新の立役者。	大山	明治維新を中心となって進め、数々の施策を断行。“富国強兵”の礎を築く。
福沢諭吉	日本最高の啓蒙思想家と称される大分県出身の偉人。一万円札の顔。	佐久間	複式簿記を日本に紹介し、慶應義塾を作り、教育活動に尽力した。 “学問のすすめ”は素晴らしい。
坂本龍馬	土佐藩出身の政治家、実業家。明治維新に多大な影響を与えた。	大山	日本で初めての株式会社である「亀山社中」から海援隊を設立。薩長同盟や船中八策も大きな偉業の1つ。
渋沢栄一	「日本資本主義の父」と呼ばれる、日本の実業家。	小野	王子製紙・日本郵船・東証など多種多様の企業の設立・経営に関わった。
高橋是清	第20代内閣総理大臣や日本銀行総裁や大蔵大臣を6回務めた。	小野	世界恐慌の沈静化に尽力し、日本経済をデフレから世界最速で脱出させた。
W・バフェット	アメリカの株式投資家。現在、バークシャー・ハサウェイの会長兼 CEO。世界第1位の資産家となる。 “オハマの賢人”と呼ばれる。	大山	長期投資を基本スタイルとし、数値だけを見ず経営者の能力など内部まで判断して投資を行う。米国のみならず、世界中の投資家のお手本となっている。

(順番は年代順で記載)

## 参考資料

- STOCK FANTASY 2004年 日本経済新聞社
- STOCKリーグ「学習マニュアル」 日本経済新聞社
- 「わかる日経」 日本経済新聞社
- 日経会社情報 2008 IV秋号 野村グループ 日本経済新聞社
- 日経 会社情報 2009 IV秋号 野村グループ 日本経済新聞社
- 会社 四季報 2009 秋季号 東洋経済新報社
- 会社 四季報 2009 業界地図 東洋経済新聞社
- やさしい日経経済用語辞典 2006 日本経済新聞社編
- 日経 流通・サービス業界地図 2006年 日経MJ
- 地方自立への政策と戦略 平松守彦 2006年 東洋経済新聞社
- 「今」がわかる！世界経済ダイジェスト 2009年版 高橋進 高橋書店
- 全国のまちの動きを伝える都市データブック 2009年版 東洋経済
- 本当はすごい日本の実力 2009年 双葉社
- 日経マネー 2009年 日経BP社
- Newsweek 9月～10月号 2008年 2009年 阪神コミュニケーションズ
- 週刊東洋経済 2008年 2009年 東洋経済新聞社
- 投資の極意は「感謝のこころ」 竹田和平 澤上篤人 2009年 PHPパブリッシング
- 人生の王道 西郷南洲の教えに学ぶ 稲盛和夫 2007年 日経BP社
- 「人を動かす人」になれ！ 永森重信 2009年 三笠書房
- 株でお金持ちになる！バフェットの教え ジェームズ・パードウ 中島早笛（訳） 2008年 アスペクト
- お金持ちになるためのバフェット入門—世界No.1投資家のシンプルなもうけ方— 三原淳雄 2006年 ダイヤモンド社
- 株式ABC 東京証券取引所
- 日経トレンドジャーナル 2004.10月号, 11月号, 12月号 日経ホーム出版
- 最新業界地図がまるごとわかる本（2004年版） 三原淳雄 2004年・2005年 高橋書店
- 最新業界地図がまるごとわかる本（2006年版） 三原淳雄 2006年・2007年 高橋書店
- 世界地図で読むグローバル経済 伊藤正直 2004年 旬報社
- 「タブー」の世界地図帳 世界情勢を読む会 平成17年6月 日本文芸社
- 経済のニュースが面白いほどわかる本 日本経済編 細野真宏 1999年 中経出版
- ビル・ミラーの株式投資戦略 ジャネット・ロウ三原淳雄/小野一郎訳 2007年 ダイヤモンド社
- 信託・証券化ファイナンス 吉野直行 2008年 慶応義塾大学出版会
- 日本経済新聞、MJ流通新聞、大分合同新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞
- THE CANON STORY 2008/2009
- キャノンマーケティングジャパングループ 会社案内 2008/2009
- 日本郵船株式会社 アニュアルレポート2008・CSRレポート2008、NYKプラスNo.1・3
- 子どもに夢を 暮らしに温もりを—安心・活力・発展の大分県— 2009年 広瀬勝貞
- 大分学 移り住むなら豊の国・大分 辻野功 2008年 明石書店
- 大分学II 大分は“ドイツの魅力” 辻野功 2009年 明石書店
- 投資信託主義 時間と資産の正しい法則 藤沢久美 2008年 角川書店
- 『会社四季報』練習帳 秋津学 2007年 東洋経済
- やさしい日経経済用語辞典 2006年 日本経済新聞社
- 市場占有率 2005年 日経産業新聞
- 長期投資でご機嫌な人生を 2007年 廣済堂出版
- 株式用語1000辞典 中邑悟 1983年 日本実業出版社
- バフェットと竹田和平 富を築く大富豪の教え 三原淳雄 2009年 日本文芸社
- ピーター・リンチの株の教科書 設けるために学ぶべきこと ピーター・リンチ ジョン・ロスチャイルド  
三原淳雄・土屋安衛 訳 2006年 ダイヤモンド社
- 現代語訳 学問のすすめ 福沢諭吉 齋藤孝 訳 2009年 ちくま新書
- 猫でもわかるインターネットの株投資 入門の入門 2000年 中経出版
- 経済が楽しくなる本 2002年 日本経済新聞社
- マネーのマナー 藤沢久美 2007年 日本経済出版社
- Forbes 2009年 株式会社ぎょうせい
- 危機から抜け出す150社 独自調査革新力ランキング 2009年 日経BP
- めっちゃくちゃわかるよ！日本経済入門II 2008年 ダイヤモンド社
- バリュー株で勝つための決算書&企業価値分析ドリル 角山智 2007年 秀和システム
- 日経新聞をとことん使う株式投資の本 前田昌孝 2006年 日本経済新聞社
- ジャパニーズインバスター 2009年 (株)フィナンシャル・メディア
- 日経流通・サービス業界地図 2006年 日本経済新聞出版社
- 「今」がわかる！日本経済ダイジェスト 高橋進 2009年版 高橋書店

- 図解革命！業界地図金融サービス編 2008年版 一橋総合研究所監修 2007年 高橋書店
- 世界経済 30分でまるわかり 2008年版 高橋進 2007年 高橋書店
- 面白いほど勝ちパターンがわかる！株で儲けるチャートの見方 東山一平 寺西摩三男 2007年 イースト・プレス
- 一勝九敗 柳井正 2003年 新潮社
- マンガ世界投資化列伝 田中憲 2004年 Pan Rolling
- 2025年 井野辺家の1日 2007年 PHP研究所
- 最新業界地図がまるごとわかる本 三原淳雄 2004年 高橋書店
- 10代のためのマネー入門—お金やカードについて考えてみよう— 2005年 金融広報中央委員会
- 知識ゼロからの数字でわかる日本経済の読み方 長谷川慶太郎 2006年 幻冬舎
- 日経ヴェリタス 2009年

## 【参考サイト】

- 日本経済新聞社公式HP <http://rank.nikkei.co.jp/money/>
- インフォシーク・マネーHP <http://money.www.infoseek.co.jp/>
- 日経ストックリーグ公式HP <http://manabow.com/sl/info/index.html>
- 日刊工業新聞社公式HP <http://www.nikkan.co.jp/>
- 日経産業新聞公式HP <http://ss.nikkei.co.jp/ss/>
- 東京証券取引所公式HP <http://www.tse.or.jp/>
- 東証株式学習ゲーム公式HP <http://www.ssg.ne.jp/>
- 野村証券バーチャル株式投資倶楽部公式HP <http://www2.nomura.co.jp/>
- ユーレット <http://www.ullet.com/>
- 日清製粉グループ公式HP <http://www.nisshin.com/>
- マルハニチロホールディングス公式HP <http://www.maruha-nichiro.co.jp/>
- 東北電力公式HP <http://www.tohoku-epco.co.jp/>
- 日本たばこ産業公式HP <http://www.jti.co.jp/JTI/corporate.html>
- 小松製作所公式HP <http://www.jti.co.jp/>
- 信越化学工業公式HP <http://www.shinetsu.co.jp/j/index.shtml>
- 野村ホールディングス公式HP <http://www.nomura.com/jp/>
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ公式HP <http://www.mufg.jp/csr/>
- 清水建設公式HP
- トヨタ自動車公式HP <http://www.toyota.co.jp/>
- イオン公式HP <http://www.aeon.info/>
- 日本電産公式HP <http://www.nidec.co.jp/corporate/index.html>
- 任天堂公式HP <http://www.nintendo.co.jp/>
- 京セラ公式HP <http://www.kyocera.co.jp/>
- ファーストリテイリング公式HP <http://www.fastretailing.com/jp/>
- 日本郵船公式HP <http://www.nykline.co.jp/profile/index.htm>
- ベネッセホールディングス公式HP <http://www.benesse.co.jp/>
- キャノン公式HP <http://canon.jp/corp/index.html>
- 日産自動車公式HP <http://www.nissan.co.jp/>
- 株式会社エイチアイエス公式HP <http://www.his-j.com/index.html>